

ヨコハマアートサイト

2017 実施レポート

地域のアート活動を
応援します



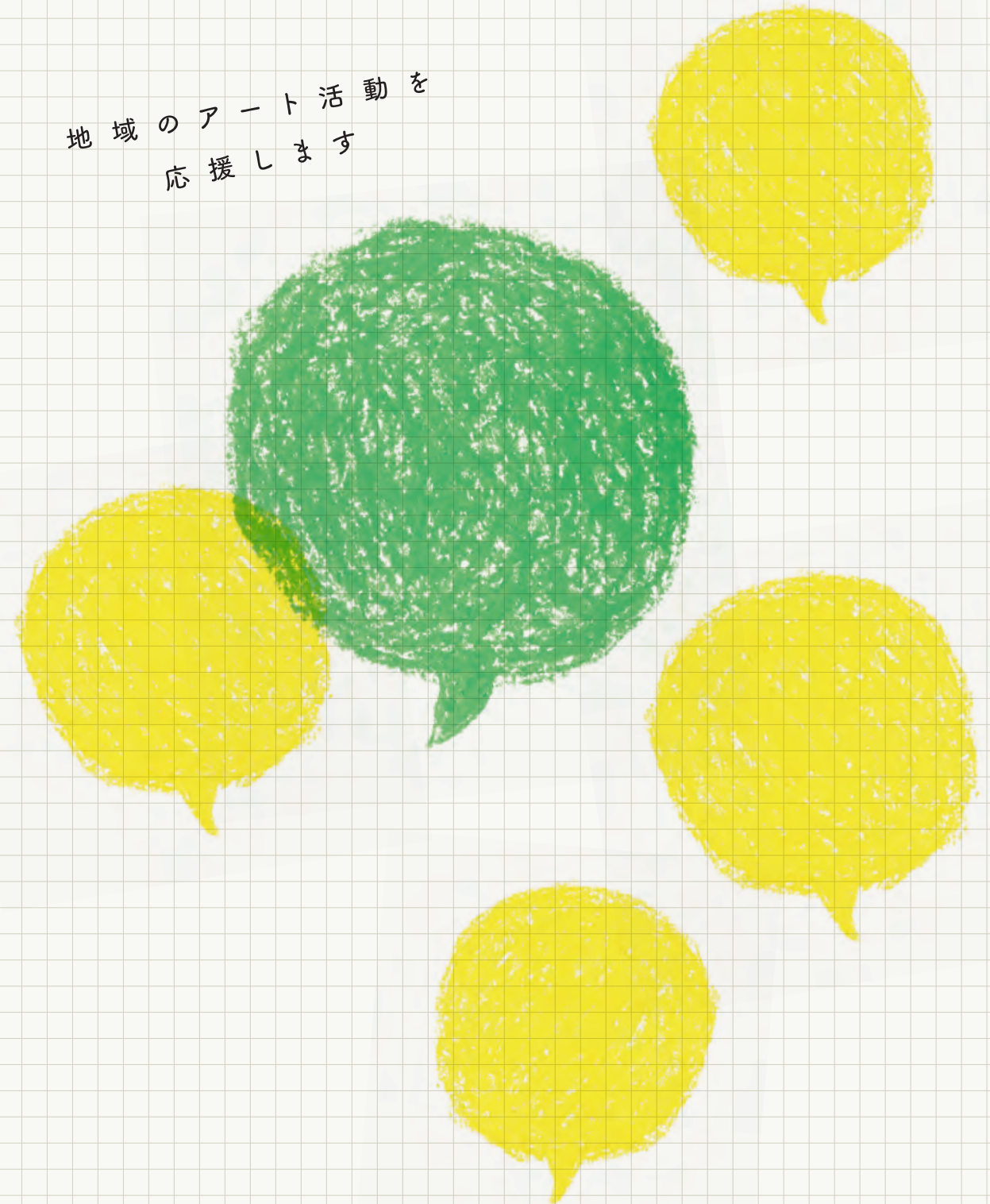
Yokohama
Artsite
2017 Report

横浜市地域文化サポート事業 ヨコハマアートサイト2017実施レポート 2018年3月30日発行

URL: <http://y-artsite.org/> TwitterID: @Y_Artsite Facebook: <https://www.facebook.com/yokohama.artsite/>

発行: ヨコハマアートサイト事務局(認定NPO法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
編集: 認定NPO法人STスポット横浜 デザイン: 相澤事務所株式会社 印刷・製本: 株式会社 三島印刷

ヨコハマアートサイト事務局 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-15 横浜STビル208(認定NPO法人STスポット横浜 地域連携事業部 内)
TEL:045-325-0410 FAX:045-325-0414 MAIL:office@y-artsite.org





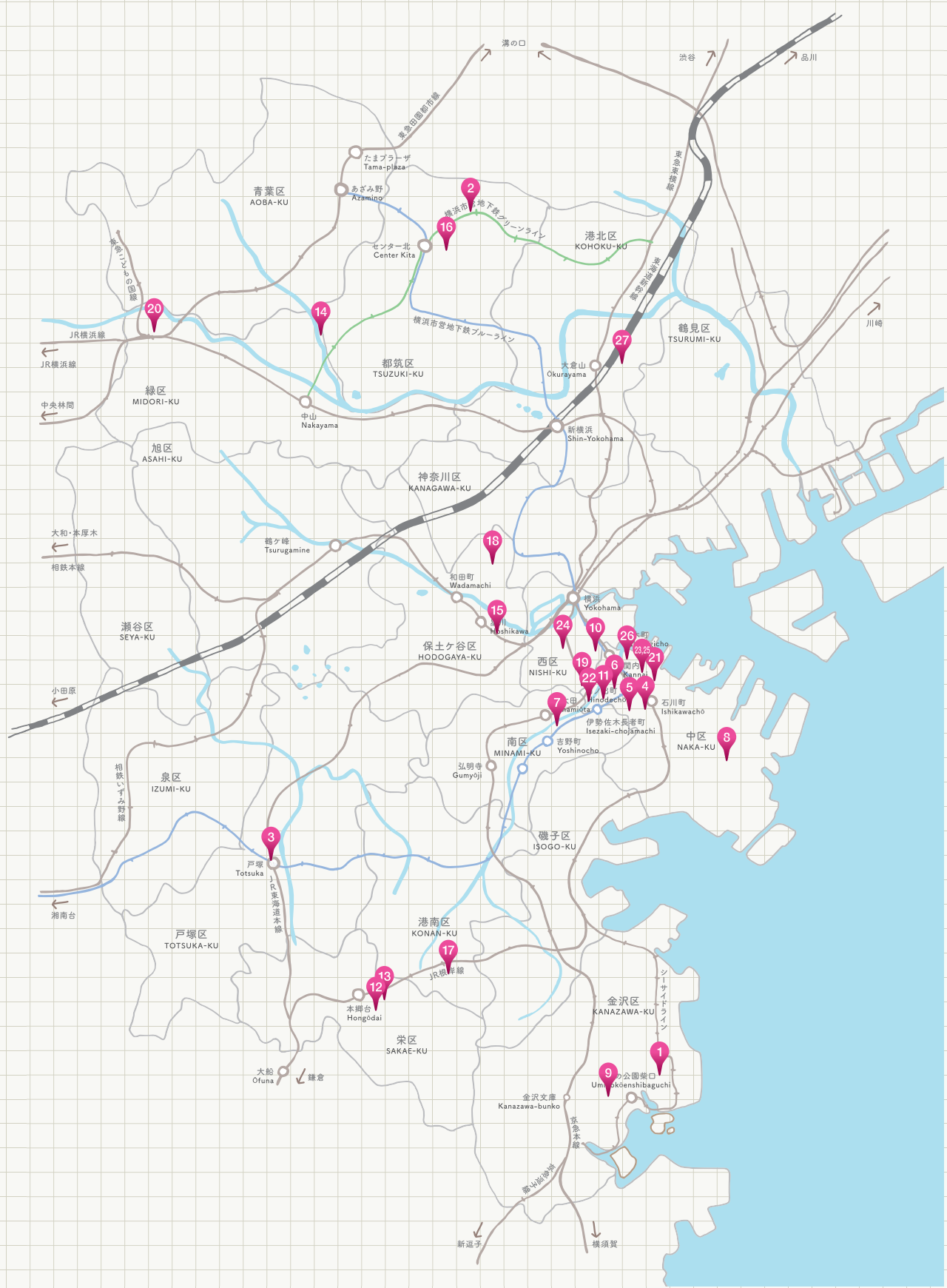
CONTENTS

01 CONTENTS
 02 INTRODUCTION
 03 OFFERING CIRCULAR

REPORT (団体名50音順)

04	1	アーティストネットワーク+コンパス 会社まるごとギャラリー2017	32	15	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと ここに響く打楽器作っちゃおう
06	2	特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	34	16	NPO法人都筑民家園管理運営委員会 都筑・遺跡公園・民家園アート月間2017
08	3	認定NPO法人あっちこっち 子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに楽しむ わくわくワークショップ シリーズVol.6	36	17	つなぐプロジェクト緑実行委員会 [otto&orabuを横浜に呼ぼう]
10	4	石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会 石川町ストリートアートプロジェクト	38	18	一般財団法人日本京劇振興協会 こども京劇プロジェクト inYokohama
12	5	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会 カドベヤ・オープンDAY—つどおう・かたろう・つながろう	40	19	「土方巽1960しずかな家」実行委員会 土方巽 1960 しずかな家III
14	6	映像グループポジション ヨコハマ・ドキュメンタリー映画普及プロジェクト2017・ 特集上映「変わりゆく街、変わりゆく子どもたち —ハマを見つめたドキュメンタリー映画—」	42	20	NPO法人ぶかぶか みんなでワークショップ
16	7	大岡川アートプロジェクト実行委員会 大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと2017」	44	21	横浜栄写友 PictureThis2017: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト
18	8	NPO法人Offsite Dance Project 本牧アートプロジェクト2017	46	22	横浜下町パラダイスマつり実行委員会 横浜下町パラダイスマつり2017+ よこはま若葉町多文化映画祭2017
20	9	金沢文庫芸術祭実行委員会 第19回金沢文庫芸術祭	48	23	横浜シネマネットワーク実行委員会 横浜映画ネットワーク実行委員会
22	10	紙芝居文化推進協議会 第18回手づくり紙芝居コンクール	50	24	横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会 横浜・藤棚シネマ商店街2017 アニメフェスティバル
24	11	旧劇場オープンスタジオ実行委員会 「踊る旧劇場」〜クリエイターオフィスのオープンスタジオ〜	52	25	横浜みなと映画祭実行委員会 横浜みなと映画祭2017 「ユカがハマに帰ってくる ～銀幕に映るヨコハマ～」
26	12	さかえegaoプロジェクト さかえegaoフェスティバル	54	26	LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA PRESENTS: LIGHT × SOUND × MOVEMENT ～子どもの感性を刺激する光と音と動きの体感型アートイベント
28	13	さかえdeつながるアート ティーンズクリエイション展2017	56	27	リビングアートネットワーク 障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を広げよう リビングアートネットワーク
30	14	特定非営利活動法人スローレーベル SLOW ACADEMY 福祉施設と地域コミュニティをつなぐワークショップ			

58 ヨコハマアートサイト2017を振り返る
 64 季刊ヨコハマアートサイトバックナンバー



あいさつ

INTRODUCTION

文化には人を動かす力があります。地域に暮らす人々が文化に触れたり、その創造にかかわることで、横浜の魅力は増していきます。

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2017は、地域課題の解決にアプローチするためコミュニティの活性化や地域資源の活用に取り組む文化芸術事業の発信と成長をサポートする場です。地域の魅力や特性を活かし、まちの活性化につながる、個性ある文化発信を続ける事業の支援を行っています。2008年の事業開始から数えて、10周年になります。

今年度は2017年7月～2018年1月に開催する助成対象事業を公募し、27団体が参加しました。地域内外でのにぎわいを創出するアートフェスティバル、さまざまな地域課題にアプローチするコミュニティアート、横浜の魅力を発信するアートプロジェクトの3つのテーマで各団体が取組を続け、多くのまちの人びとを巻き込んだ取り組みを行いました。

団体を支えるヨコハマアートサイト事務局は、特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団の協働で運営を行っています。横浜の地域文化を考える広報誌「季刊ヨコハマアートサイト」の刊行や、交流する場「アートサイトラウンジ」の開催も行いました。

まちづくりや教育、福祉など芸術文化が隣接する領域を巻き込んで行われた各団体の報告はバラエティ豊かです。これらの活動を参考にして、新しい取組が横浜の各地域で生まれますように。

2018年3月

ヨコハマアートサイト事務局

(認定NPO法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

募集案内

OFFERING CIRCULAR

ヨコハマアートサイト2017募集

公募概要

対象期間
2017年7月～2018年1月

対象となる活動

以下のいずれかのテーマを含み、横浜市内で実施される美術、映像、音楽、舞台芸術などにかかわる芸術文化活動。
※期間中、不特定多数が参加できる催しが含まれていること。

ART FESTIVAL
アートフェスティバル



アートを通じて地域資源の魅力を引き出し、開催地域内外のにぎわいを創出するもの

COMMUNITY ART
コミュニティアート



アートを通じて福祉・環境・まちづくり・国際交流等における地域課題にアプローチするもの

ART PROJECT
アートプロジェクト



横浜の歴史や自然、景観などに着目し、アートを通じて横浜の魅力を市内外へ発信するもの

活動資金は1件につき10万円～200万円を助成します。

ただし、これまでに開催実績がある継続活動は原則、助成対象経費の2分の1以内の助成となります。

また、継続して助成する期間は、5年を目安とします。

(6年目も申請は可能ですが、採択の優先度は低くなります。)

このほか助成以外に、季刊ヨコハマアートサイト、チラシ、ウェブサイト・実施レポートなどによるプロモーションや、参加団体間の交流(キックオフミーティング・研修・報告会など)をサポートします。



アーティストネットワーク+コンパス

連絡先
URL <http://www.anc3434.com>
E-mail info@anc3434.com
TEL 045-785-3434
Facebook <https://www.facebook.com/ANC3434/>

団体紹介

任意団体「アーティストネットワーク+コンパス」のスタッフ及び、外部アドバイザーを通じて企画・運営。金沢区福浦界隈の工場地域にて特有の地域性を生かした活動展開。不利を有利に利用しての発信、近隣協力工場の繋がり、拡大を目指します。



「金沢区工場撮影散歩」の参加者と川名マッキーが撮影した写真を横浜シーサイドライン新杉田駅構内で展示

新しい視点を「とり」入れる
工場地域で5回目の美術展

金沢区福浦の工場地域を会場にした美術展とワークショップの開催も、今年度で5回目です。タイトルは「バードオブパラダイス」。酉年にちなんで、新しい視点を「とり」入れて、「とり」こんでいきたいとの思いから、作家の方々に「とり」から連想する作品の制作を依頼し、バラエティ豊かな作品が揃いました。実際の工場を展示会場にしているため、営業時間中のギャラリーツアーでは、会議中のミーティングルームで来場者が作品を鑑賞する場面も。作品と空間を味わう、ここならではの体験です。

毎回大人気の撮影ワークショップ「金沢区工場撮影散歩」では、新たな企業が会場に加われました。外部の人が訪れることの少ない地域なので、参加者はもちろん、受け入れる工場側にとっても刺激的な時間となりました。さらに今回は撮影作品をシーサイドライン新杉田駅構内で展示。地域の魅力を発信することにつながりました。地元企業や工場が出展するワークショップイベント「Aozora

Factory」では、作家によるキャンドルづくりと廃材を利用したデコレーションワークショップを実施しました。

住宅地とは違って工場が並ぶこのまちでは、近隣の人々と知り合う機会もそう多くはありません。そんな中で、この企画を通して、まちに新たなネットワークが生まれたことは大きな成果です。過去に展示会場となった工場が野外展示作品を置き続けるなど、みんなで地域を盛り上げようという機運が高まってきました。日々の中でも、会社の垣根を越えて気軽に相談し合える環境が育ちつつあります。

ヨコハマアートサイトを通じたつながりも生まれ、山陽印刷株式会社での廃材であるインク缶を「打楽器コンサートグループ・あしあと」に楽器作りワークショップの材料として提供。美術展のクロージングイベントでは演奏会を実施したことによって、参加者層を広げることができました。今後も、外部と連携しながら、この地域の魅力を発信していきます。

会期：2017年9月23日(土)～11月22日(水)
会場：山陽印刷株式会社、株式会社山装、株式会社坪倉興業、鶴見金網株式会社、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社セキド、株式会社中込製作所、横浜市産業振興センター大グラウンド、横浜シーサイドライン新杉田駅構内

来場者数：322人

参加アーティスト：阿部美帆(Kaikas')、小川敦子、川名マッキー、田中絵奈、田中清隆、やまゆりの、山田裕介、女子美術大学「エコプロダクトグループ」、NPO法人 打楽器コンサートグループ・あしあと

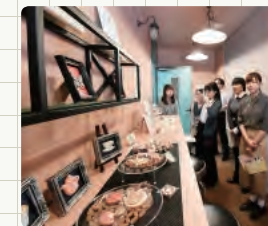
主催：アーティストネットワーク+コンパス
共催：PIAフェスタ実行委員会(PIAフェスタ当日のみ)
後援：横浜市金沢区役所
協賛：山陽印刷株式会社

協力：株式会社坪倉興業、株式会社南部フーズ、株式会社ニットー、株式会社山装、鶴見金網株式会社、玉家運輸倉庫株式会社、有限会社協和タイヤ商会、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社横浜八景島、株式会社セキド、株式会社中込製作所、並木コミュニティハウス、女子美術大学芸術学部 デザイン・工芸学科プロダクトデザイン科

実施イベント
9月23日(土) ワークショップ:金沢区工場撮影散歩
9月30日(土) 作品展示
～10月28日(土)
9月30日(土) オープニング
10月4日(水)、10月14日(土)、10月18日(水)、10月28日(土) ギャラリーツアー
10月14日(土) ワークショップ:オリジナルキャンドルを作ろう
10月28日(土) クロージング
11月15日(水) 作品展示
～11月22日(水)



会社まるごとギャラリー2017
オープニングギャラリーツアー風景
山陽印刷にて



会社まるごとギャラリー2017
ギャラリーツアー風景
撮影者/川名マッキー



阿部美帆ワークショップ
「オリジナルキャンドルを作ろう」



特定非営利活動法人

アーモンドコミュニティネットワーク

連絡先
URL <http://almondcommunitynetwork.com>
E-mail npoacn@gmail.com
TEL 045-594-7566
Facebook <https://www.facebook.com/NPOAlmondCommunityNetwork/>

団体紹介

傾聴活動を土台として、青少年から高齢者まで幅広い年代の市民と外国に繋がる市民が運営しています。不登校・貧困といった生きづらさを抱える子ども、青少年、大人のために人が孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現を目指し、コミュニティ創りを実践しています。



横浜からとイタリアからの、アニメーション原画とArtistBook作品展覧会

横浜の民話を題材に
イタリアと連携した作品づくり

生きづらさを抱える青少年が自身の得意を活かし、イタリア在住のアーティストと協働しながら作品制作を行うプロジェクトもこれで6年目。今回は、横浜北部地域に伝わる民話を題材にしたアートワークショップとショートムービー・アニメーションの制作、上映を行いました。

アートワークショップでは、横浜北部の民話をテーマにした素材を使ってコラージュの技法で「ArtistBook」を制作しました。ポップアップカードのような仕組みで、河童やキツネの嫁入りなどのモチーフから好きなパーツを切り取って、それぞれに工夫を凝らしながら配置を決めていきます。民話のリサーチやアニメーション制作を担ったのは、法人の伴走型支援活動に関わりのあった青少年たちです。自主的に各地を回り、作品制作のため民話のリサーチを行ったり、イタリアから送られてくる原画をアニメーション化したりと、それぞれが自分の興味を活かしながら、作品を通して社会と関わる機会となりました。

アニメーション制作を担当した大学生アニメーターは、スカイプ等を利用し、オンライン上でイタリアのアーティストとやりとりを重ねて、横浜北部の民話や風習を元にしたショートムービー・アニメーション「雪の約束「THE PROMISE OF SNOW」」を完成させました。さらに今年度は、イタリアの美術高等専門学校と連携し、現地でも「横浜北部の民話」をテーマに学生たちがアニメーションを制作。同世代のアニメーター同士が海を越え、作品を通して交流する場としても機能したことは嬉しい成果です。上映は横浜市歴史博物館の講堂ほかで行いました。

また今回は、昨年の事業実施を経てつながりができたアーティストや青少年支援団体と、具体的な連携を図ることができました。中でも、横浜市歴史博物館の図書室で開催した「民話の影絵劇&読み聞かせイベント」は、図書室の新たな活用の一つとして喜ばれました。連携先の拡大に伴い、事業を継続するための資金確保が今後の課題です。

会期：2017年9月16日(土)～12月9日(土)
会場：アーモンドホープセンター、横浜市歴史博物館 講堂／
研修室／図書閲覧室、なごみ邸、art space 赤い家
来場者数：383人

参加アーティスト：牧田あゆみ、バルバラ・ラーキ(GRIMM TWINS)、星野拓、西村亜希子、祓是清(松岡夏生)、ロバート・エスキルドセン、ミケレ・ロテッリ、フィリッポ・ミチャレリ、ファビオ・マルキ(Crayon Made Army)、スクオーラ デル リプロ(Scuola Del Libro)、美術高等専門学校の学生26名、谷川まゆこ、菅野智子

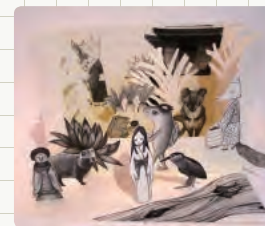
主催：特定非営利活動法人 アーモンドコミュニティネットワーク
協力：アーモンドホープセンター、横浜市歴史博物館、Scuola Del Libro スクオーラ・デル・リプロ美術高等専門学校、赤い家art space、なごみ邸、横浜に聴くプロジェクト

助成：クレディスイ証券株式会社

実施イベント
9月16日(土) 「河童KAPPA」原画の展示会
～9月19日(火)
9月17日(日) アートワークショップ
～9月18日(月)
9月18日(月) 原画展示会/アニメーション上映会
～12月9日(土)
9月30日(土) アニメーション上映会
9月30日(土) アートワークショップ
10月1日(日) 民話の影絵劇&読み聞かせイベント
10月7日(土) アニメーション上映会
10月7日(土) アートワークショップ
10月28日(土) アニメーション上映会 & アートサイトラウンジvol.15
横浜の北部の民話に聴く
～「民」と「族」の間に挟まれて～
アーティストと参加者交流会



横浜市歴史博物館でのオリジナル影絵劇上演。
幼児～高齢者が参加



横浜北部の民話から、
ArtistBookワークショップ
参加者の作品



横浜とイタリアの連携で制作した
アニメーション作品の上映会



「『民』と『族』の間に挟まれて」
講演会と上映会

子どものためのアート・音楽・ダンスを いっぺんに楽しむわくわくワークショップ シリーズ Vol.6



認定NPO法人あっちこっち

連絡先
URL <http://acchicocchi.com/>
E-mail info@acchicocchi.com
TEL 090-1261-1308
Facebook <https://www.facebook.com/npoacchicocchi/>
Twitter <https://twitter.com/npoacchicocchi>

団体紹介

芸術をもっと身近に楽しく元気な社会を一緒につくって
いく! をモットーに、アーティストと芸術を必要とする人々を
つなぐ社会貢献活動に取り組んでいます。横浜市内の芸術
施設や教育施設ほか、東北と熊本の被災地でコンサートや
ワークショップを開催しています。



先生たちのパフォーマンスを鑑賞しよう! 撮影者/平館平

会期:2017年10月5日(木)~12月2日(土)

会場:戸塚区民文化センターさくらプラザ リハーサル室/
大ホール、学校法人三幸学園 横浜こども専門学校、
ひらがな商店街アートスペース「と」

来場者数:350人

参加アーティスト:石河美和子、青木智哉、小鹿紡、キュタツヤ、中村明日香

主催:認定NPO法人あっちこっち

共催:戸塚区民文化センターさくらプラザ

後援:横浜市教育委員会

協力:学校法人三幸学園 横浜こども専門学校、ひらがな商店街アートスペース「と」

実施イベント

10月5日(木)	大人のためのプレワークショップ
10月12日(木)	保育専門学校生への講義①
10月13日(金)	保育専門学校生への講義②
10月18日(水)	保育専門学校生への講義③
10月19日(木)	保育専門学校生への講義④
11月18日(土)	プレワークショップ
11月19日(日)	プレワークショップ
12月2日(土)	子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに 楽しむわくわくワークショップ

子どもを取り巻く さまざまな人を巻き込んで

6回目となる今年度は、チャイコフスキー「くるみ割り人形」
がテーマです。美術・音楽・ダンスの複合的な子ども向け
ワークショップと保育専門学校生への講義を行いました。
ワークショップは、戸塚区民文化センター さくらプラザで
のメインイベントと、その前段階のプレワークショップ、
そして初の試みとなる保護者を対象とした「わくわくワー
クショップ大人編」の三つを連動させながら展開しました。

子どもたちがのびのびと芸術を楽しむには、最初の出
会いが肝心です。そのため、保護者や保育園の先生を目
指す学生たちに対してのアプローチを行いました。保護
者向けワークショップでは、参加者がリラックスできる環
境づくりを心掛けました。子どもたちの自由な表現を引き
出すには、まず保護者の不安を取り除くことが重要です。
ピアノの生演奏や美術ワークショップを体験しながら子
育ての悩みを相談したり、アーティストの視点に触れるこ
とで、息抜きの場にもなったようです。

保育専門学校の講義ではアーティストによるレク
チャーおよびワークショップを行いました。今回は学生た
ちにさまざまな場面を想定してのロールプレイに挑戦し
てもらい、その後の子ども向けワークショップにスタッフと
して参加した学生にとっては、実践と連動した学びの場
となりました。

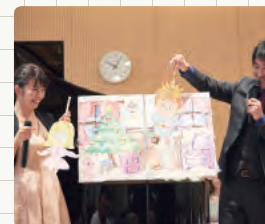
メインイベントでは、「くるみ割り人形」の物語に触れ、
美術家とともに鈴やカスタネットのオーナメントを制作し
ました。その後、綿あめに見立てた秘密の通路を抜けて
大ホールへ移動。ピアノに合わせて作った楽器を鳴らし、
世界の言葉と振付で小学3年生までの子どもたちが自
由な表現を楽しみました。一方、学生たちの役割分担など、
運営面では課題もありました。アンケートでは「鑑賞だけ
でなく体験しながら楽しむ機会は貴重」という意見もあり、
今後はプログラムの開発と同時に発信にも力を入れたい
と思っています。



秘密の綿あめ通路をぬけるとそこはお菓子の国!
撮影者/平館平



クララと踊ろう! 撮影者/平館平



紙芝居で『くるみ割り人形』の
ストーリーを伝えます
撮影者/平館平



大ホールをいっぱい使って
ダンスしよう!
撮影者/平館平



カラフル素材でお菓子の
クリスマスオーナメントづくり
撮影者/平館平

中区 石川町ストリートアートプロジェクト



石川町ストリートアートプロジェクト 実行委員会

連絡先
E-mail art.ishikawacho@gmail.com
TEL 045-641-7638
Facebook http://fb.com/1702238913419184

団体紹介

近年、当該地区の商店街に所属する若い世代により街を活性化しようという動きが高まり、その動きの中で、町内会と商店街が手を取り活動するようになってきました。このプロジェクトで石川町の新しいまちの魅力・価値観を発見し、恒常的な街の活性化につなげたいと考えています。



石川町アートフリーマーケット

ストリートカルチャーという文化を まちの新たな魅力としてアピール

石川町は、8つの町内会と4つの商店街が共存する下町風情があふれるまちです。初めてのフェスティバルとなる今回は、ストリートカルチャーをまちの文化としてとらえ、新しい魅力や価値観を発信することを目指しました。

商店街の中にアート関連の店舗が増えてきたこともあり、まち全体でアートに触れる機会をもつことを狙って、近隣店舗での体験企画やギャラリーを巡るスタンプラリー週間を開催。終了後には店舗側から「また参加したい」と声が上がりました。また、路面を活かしたスケートボードのミニパークの設置を企画し、キッズスクールの参加申し込みには14名の応募がありました。

しかし、屋外でのメイン企画を予定していた週末に台風が接近。安全性を考えて止む無く二日目の開催を中止し、一日だけの前倒し開催としました。高架下を中心に、フリーのアーティストによる自由な表現の場であるアートフリーマーケットや屋台、ステージパフォーマンス。ロコ

サトシによるライブペインティングは、雨にもかかわらず独特のパワーで周りの雰囲気をもくしました。さらに、ウォールペイントワークショップには未就学児から小学生の18人が参加。中村川沿いのフェンスに立てかけた20mの板を前に、雨の中でテンションの高まった参加者は、力いっぱいそれぞれの表現を楽しみました。

縮小開催となったことはとても悔しいですが、準備段階でまちの人々から楽しみにしている声を聴けたのはうれしいことでした。また、イベントの企画を通して商店会と町内会の親睦が深まったことも成果のひとつです。協力してまちを盛り上げるという機運が高まり、フリーマーケットなどは、今回をきっかけに継続的な実施へつながりそうです。今後は雨天にも対応できる運営体制づくりを課題とし、地元のもつストリートカルチャーという新しい文化が育っていることを発信していきたいと思っています。

会期：2017年10月16日(月)～10月29日(日)
会場：石川町界隈の店舗、石川町駅南口前路上、石川町
ひらがな商店街路上、マーケットテラスカフェ石川町、
石川町ひらがな商店街仲通り
来場者数：518人

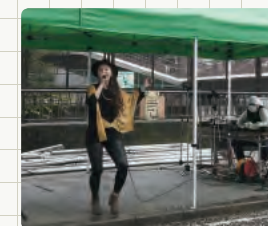
参加アーティスト：ロコ・サトシ、横浜日本映画祭剣持良輔、プロスノーボーダー高橋
烈男、huestro sonido、Yas w/gout、斎藤ネオンサイン、千亜輝、
DJ TOSHI、DJ GENTO、スタジオBoo-Thang、ダンススタジオ
ワッツアップ!!金沢文庫、DA BAY CITY OMNIBUS、VOLTA
MASTERS

主催：石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会
共催：石川町活性化委員会
後援：横浜市中区役所、石川町連合商店街、石川町2丁目町内会
協賛：J-COM横浜テレビ局、サッポロビール株式会社、サントリー株式会社、株式会
社ライフラボ、高橋自動車株式会社、一般社団法人横浜まちクリエイティブ、
MO3ストア、スケートボードショップファブリック、フィリップモリスジャパン、
スノーボードショップPOLICE45
協力：石川町連合町内会

実施イベント
10月16日(月) 石川町アートスタンプラリー
～10月22日(日)
10月21日(土) アートフリーマーケット
10月21日(土) ロコサトシ氏ライブペインティング
10月21日(土) 横浜日本映画祭上映会
10月21日(土) アイラブ石川町ステージ
10月21日(土) 石川町屋台村
～10月29日(日)



ロコサトシ氏ライブペインティングと
フォスポット



ストリートアーティストによるステージ



石川町屋台村



カドベヤ・オープンDAY

—— つどおう・かたろう・つながろう



居場所「カドベヤで過ごす火曜日」 運営委員会

連絡先
URL <http://www.kadobeya2010.net/>
E-mail chacky@keio.jp
TEL 090-4722-8001

団体紹介
カドベヤは2010年4月に設立したオルタナティブ・スペースです。2012年4月にアーティストや参加者たちにより、居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会が立ち上げられました。様々な人が集い、互いの夢を育み、実現する居場所を目指しています。



みんなで盆踊り

居場所「カドベヤで過ごす火曜日」の 7年を振り返る

毎週火曜日にオープンする「カドベヤで過ごす火曜日」は、ワークショップで体を動かし、集まった人々で夕食を作って食卓を囲む地域の居場所です。非日常的な創作活動と、日常の中で他者と生み出す共同作業の両方を「アート」と捉えて活動を行ってきました。今回は活動開始から7年目。これまで行ってきたアートとその意義を振り返り、さらなる展開を考えるため、毎週火曜日の居場所開催に加えて三つのコミュニティアートイベントを開催しました。

まずは、これまで行ってきた表現系ワークショップの事例と成果をいくつか取り上げ、発表する機会を設けました。歌や地唄、マジックにダンスなど、講師も地域の参加者も入り混じり、最後には参加者が書いた歌を元にオリジナル盆踊りを創作しました。

さらに研究の観点から活動を見直すため、さまざまな背景を持つ人々をダンスでつなぐコミュニティダンスの第一人者をイギリスから招き、シンポジウムとワーク

ショップを開催。コミュニティの中での「アート」の役割について意見交換を行いました。

この二つのイベントを通し、カドベヤの一連の活動をそのままパフォーマンスとした観客参加型イベントも開催しました。「生きることはアートだ!」をテーマに、常連の参加者やアーティストが案内人として進行し、最後には観客からのフィードバックを得ました。

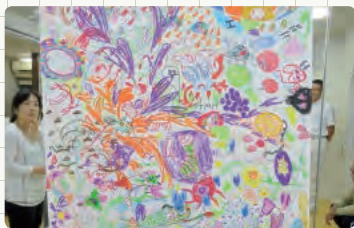
今回の実施において最も重要な点は、ファシリテートを誰かに任せるのではなく、自分たちで話し合いながらイベントをまとめていったことです。その過程そのものが、これまでの蓄積による成果だと言えます。また、今までの活動の過程とその分析を『質的心理学フォーラム(特集:立場を異にする者同士のかかわりの質的記述)』に発表することで、社会学や心理学に関わる専門家からのフィードバックを得ることができたのも大きな進歩です。今後も新たな表現ワークショップの開発や講師の発掘を行い、事業を継続していきます。

会期:2017年7月1日(土)~2018年1月30日(火)
会場:カドベヤ、慶応義塾大学来往舎
来場者数:309人

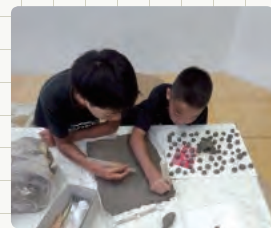
参加アーティスト:赤津正人、井上暉堂、大崎晃伸、小川美紀雄、木槍朱実、三枝まり、シリウ、瀬野美佐、手塚千鶴子、花崎社季女、花崎三千花、ダニエル・プラン、セシリア・マクファーレン、松元康太、吉福敦子、レイチェル・リー

主催:居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
後援:慶応義塾大学教養研究センター
協力:コトラボ合同会社、一般社団法人「地唄舞普及協会」、黒沢美香 & ダンサーズ、The Dance Times

実施イベント	実施日時	内容
「ストップムーブメント」	7月4日(火)	
「手品まずはここから」	7月11日(火)	
「カドベヤ大焼きそば大会」	7月18日(火)	
「和を嗜む」	7月25日(火)	
「ねんどで遊ぼう」	8月1日(火)	
「Big Draw!」	8月8日(火)	
「寿Action!寿に集まれ!」	8月15日(火)	
「だべってダンス」	8月22日(火)	
「カドベヤの夏祭り」	8月29日(火)	
「はじめの仏教」	9月5日(火)	
「僕もあなたもコレオグラファー」	9月12日(火)	
「呼吸を学ぶ」	9月19日(火)	
「カドそうめんの日」	9月26日(火)	
「手品まずはここから」	10月3日(火)	
「はじめの仏教」	10月10日(火)	
「全身呼吸法!」	10月17日(火)	
「絵葉書を出そう」	10月24日(火)	
「やさしい歌の夕べ」	10月31日(火)	
「びよ団子を作ろう」	11月7日(火)	
「見て・描いて・話して」	11月14日(火)	
「和を嗜む」	11月21日(火)	
「コラージュを作ろう」	11月28日(火)	
「多様な人々をつなぐコミュニティとアート」	11月29日(水)	
「だべってダンス」	12月5日(火)	
「だべってダンス」	12月12日(火)	
「ほぐまり手当塾」	12月19日(火)	
「今年最後のカド鍋」	12月26日(火)	
「だべってダンス」	1月9日(火)	
「火曜日のカドベヤを土曜日に覗く」	1月13日(土)	
「人を読んでみる」その1	1月16日(火)	
「人を読んでみる」その2	1月23日(火)	
「イギリスのコミュニティづくりについて学ぶ」	1月30日(火)	



みんなで大きな絵を描いてみる



粘土を使ったWS



夏の演芸会



カレーでアート

ヨコハマ・ドキュメンタリー映画普及プロジェクト2017
 特集上映「変わりゆく街、変わりゆく子どもたち
 —ハマを見つめたドキュメンタリー映画—」



映像グループローポジション

連絡先
 URL <https://www.lowposi.com/>
 E-mail low-posi@nifty.com
 TEL 045-228-7996
 Facebook <https://www.facebook.com/lowposi/>

団体紹介

私たち映像グループ ローポジションはドキュメンタリー映画の製作とともに、NPO・市民活動・教育機関等から依頼を受け、さまざまな映像制作を行っています。本プロジェクトは、横浜でドキュメンタリー映画を更に普及させていくことを目指しています。



「中華学校の子どもたち」上映の様子

会期：2017年11月3日(金)
 会場：横浜シネマリン
 来場者数：284人

参加アーティスト：片岡希、馬晶、堀田泰寛、加藤彰彦、中村高寛

主催：映像グループ ローポジション
 協力：横浜シネマリン

実施イベント
 10月23日(月) アートサイトラウンジvol.14
 アートイベント、撮った後どうする？
 11月3日(金) ハマを見つめたドキュメンタリー映画
 —変わりゆく街、子どもたち—

横浜を記録したドキュメンタリー映画から
 「他者」と「私」をつなげる試み

2年目となる今回は、横浜シネマリンを会場に、横浜を舞台としたドキュメンタリー映画の特集上映とトークイベントを行いました。上映作品は、横浜の地域を見つめた作品をピックアップしました。横浜山手中華学校の日常と歴史を描く「中華学校の子どもたち」、1970年代の鶴見区の工場地帯の空き地で遊ぶ子どもたちを追った「日曜日の子供たち」、同じく70年代に簡易宿泊所の密集する寿町で撮られた「どっこい！人間節 寿・自由労働者の街」の3本です。

地域の方々があらためて映画と出会えるよう、撮影されたそれぞれの地域を廻り、イベントの告知を行いました。中でも、鶴見では自治会や商店会に協力してもらい、映画に登場する当時の子どもたちを探す様子が新聞にも掲載され、当時を知る人々や地元の方々の来場につながりました。当日は、幼い子どもを連れた中国人の家族や、長く鶴見に住んでいる方々、現在の寿町に関わる方々も多く訪れ、自分が幼い頃のまちの記憶と重ね合わ

せたという感想もあがりました。

製作者や出演者によるトークでは、撮影時と現在の街の変化や、変わらぬ人の思いが語られました。またシンポジウムでは、記録が持つ重要性、映画館という場でそれを共有する意義など、さまざまな意見を交わし、共有することができました。「横浜」という大都市でも、ひとを見つめていくことでまちの息吹が感じられたことが、今回一番の発見だった気がします。

社会の変化の中で忘れられていったもの、見過ごされてきたものに目を向け、そこからの視線を感じ取ることは、単なる回顧趣味ではありません。「他者」と「私」を理解し、「これから」を模索する手立てでもあります。優れたドキュメンタリー映画は、時代を超えてそのような力を持ちます。上映後もいくつも問い合わせがあり、反響を感じています。今後も、ドキュメンタリー映画の普及を目指し、横浜で文化的な土台を築き上げるため、さらなる展開を模索していきます。



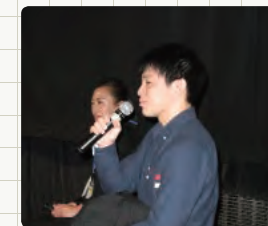
横浜シネマリン上映前の受付風景



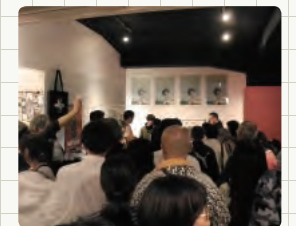
片岡希監督、馬晶さんによるトーク風景



シンポジウム風景



「中華学校の子どもたち」
 出演者シャオリンの挨拶



上映後に賑わう劇場ロビー

大岡川アートプロジェクト 「光のぷろむなあと2017」



大岡川アートプロジェクト実行委員会

連絡先
URL <http://ohokagawaart.blog45.fc2.com/>
E-mail ohokagawaart.koho@gmail.com
TEL 070-5557-9924
Facebook <https://www.facebook.com/ohokagawaart>
Twitter <https://twitter.com/ohokagawaart>

団体紹介

吉野町市民プラザが2008年に立ち上げたアートプロジェクトのメンバー(町内会、近隣公共施設、マスコミなど)が中心となり、09年に実行委員会を設立。南区の蒔田、お三の宮などの住民と各種団体を巻き込みながら、住民のつながりを作っていきます。



LED電球とろうそくによるペットボトルキャンドル

ハッピーバースデー 10周年を祝う竹のトンネル

大岡川に面した蒔田公園でのイルミネーションイベントもついに10周年。今年度は「竹を使ったトンネル」というアイデアを中心に企画を進行しました。地域全体を盛り上げるため、川を隔てたところにある吉野町市民プラザとフォーラム南太田に連携企画の開催を依頼し、回遊性の向上につなげました。実施期間前にも、蒔田公園で行われる南まつりやふれあいパークまつりをはじめとしたイベントに出展し、年間を通して地域との関係づくりに努めました。

準備を進めていた9月下旬、実行委員長が急逝するという思わぬ事態に見舞われました。地元町内会の会長も務め、名実ともに中心であった委員長不在の状況で実行委員会全体が混乱しましたが、最終的には副委員長が事業を引き継ぎ、イベントの開催を決定しました。その後、2カ月後に迫ったイベントに向けて実行委員が手分けして、外部団体との交渉や手続きを進めました。竹のトンネルについては、アーティストや地元企業の協力を得て、実現し

ました。人員の問題からこれまで行っていた首都高橋桁のライトアップは行いませんでしたが、核である5,000個のキャンドルは、LED電球を増やしたり、手作りペットボトルホルダーをろうそくが消えづらい形に改良したりと工夫を凝らしたことで華やかであたたかみのある空間を生み出しました。さらに、地元小学校のお囃子や中学校の吹奏楽部等による水辺での野外コンサート、アートワークショップ、アーティストの店や放課後キッズクラブのアート作品展示など公園全体がアートに包まれました。ケーキをイメージしたオブジェが輝き、10周年を祝いました。

緊急事態にも関わらず、チラシ配布をこれまでより広範囲の連合町内会にお願いするなど、実行委員が結束して取り組むことができたことは大きな成果といえます。今後は、あらためて実行委員会自体の構成や今後の活動の方向性を定め、事業の規模を設定し直す必要があると考えています。

会期：2017年10月21日(土)～12月10日(日)

会場：蒔田公園

来場者数：6,540人

参加アーティスト：今城竜也、石渡文、竹本真紀、勝野真美、ふじたおさむ、今井尋也

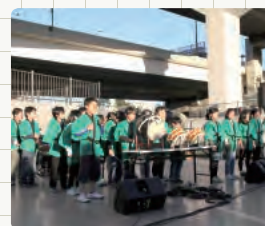
主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会

後援：横浜市南区役所

協賛：公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会 横浜南支部、三徳エステート株式会社、株式会社平岡電機工事、蒔田連合子ども会、株式会社グローバル横浜警備保障、株式会社数嶋あられ嵯峨乃家本店、横浜建設一般労働組合南支部、旅館松島、株式会社浅岡装飾、蒔田小キッズクラブスタッフ一同、日枝小キッズクラブスタッフ有志、ファミリーマート横浜宿町店、神奈川電材株式会社、神奈川ドライビングスクール、南吉田町町内会、とりぎゅたぶら、鮎わかし、ルシェール、有限会社ミナミファーマシー、ブラッセリーマルミット、まっちゃげ、じんや、ムツミ硝子有 限 会 社、ばあら～泉、カッセルカフェ、有限会社かめや、サンクス横浜吉野町駅前店、有限会社若山商店、大岡小学校放課後キッズクラブ、夢庵横浜宮元町店、有限会社蟻塔

協力：横浜市交通局、株式会社タウンニュース社、蒔田連合町内会、お三の宮地区連合町内会、吉野町町内会、太田地区町内連合会、蒔田公園愛護会、横浜市立蒔田中学校、横浜市立共進中学校、横浜市立日枝小学校、南太田小学校おやじの会、日蓮宗本正院、まいたエコサロンの会、神奈川県横浜川崎治水事務所、横浜市環境創造局、横浜市南土木事務所、横浜市中村地区センター、横浜市吉野町市民プラザ、男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)、ABURABITO、NPO法人 竹もりの里、I LOVE YOKOHAMA、横浜市陸地域ケアプラザ、NPO法人よこはま里山研究所～NORA(はまどま)、株式会社太陽住建

実施イベント
10月21日(土) プレイベント
12月9日(土) 光のぷろむなあと2017
～12月10日(日)



実行委員長の遺志を継いでお囃子を披露した日枝小学校の児童



屋台では地域の商店や団体のほか、日枝小学校の出店もあった



横浜市カーナー協会による大岡川でのパフォーマンス

中区 本牧アートプロジェクト2017



NPO法人 Offsite Dance Project

連絡先
URL <http://honmoku-art.jp/>
E-MAIL info@honmoku-art.jp
TEL 090-6346-5820
Facebook <http://fb.com/1403029513267344>

団体紹介

2008年設立。横浜を拠点に国内外の非演劇空間でアクセシビリティの高い舞台芸術をプロデュース。身の回りの環境を作品に取り込むことで、ダンスそのものの領域や可能性を広げ、アーティストの想像力や観客の眼差しに新たな刺激となる体験をつくり出します。



内木里美「こどもディスコ Season 3」 @HONMOKU AREA-2

5年目の年月を経て 本牧に広がるアート

5周年を迎えた本牧アートプロジェクトでは、音楽発信地としての本牧をクローズアップする2つのライブを企画しました。1964年に本牧に誕生したクラブ・ゴールデンカップには、ミュージシャンPANTAが登場。超満員の会場は熱気に包まれました。続く「HONMOKU-NITE」では、本牧のディスコ文化から生まれたダンス・ハマチャチャの伝道師と言われる藤中一郎とDJ大貫憲章を迎えて、ダンス・音楽の歴史や背景を楽しみながら本牧の文化を体現できるように演出しました。いずれも、かつての本牧を知る人々がまちへの熱い思いを語り合う貴重な時間となりました。

夜のライブと連携し、昼に実施したのが、ダンサー・内木里美による「こどもディスコ Season 3」です。2015年のアーティスト・イン・レジデンス企画をきっかけに毎年多くの地元住民の応援のもとに継続開催され、本牧アートプロジェクトに欠かせないものに成長しました。メイン会場である旧映画館のロビーを会場に、公募で集

まった地元の子どもたちがダンスを披露しました。

このほか、地域住民との交流を軸としたプログラムとして、作曲家・宮内康乃による小学生対象のワークショップと本牧AIR(アーティスト・イン・レジデンス)を実施。本牧AIRでは、京都在住のアーティスト・間瀬拓人を招聘。針金ハンガーを使用したオブジェを用いた参加型プロジェクトを実施しました。ワークショップでは参加者の多さからも、活動が地域に定着してきたことを実感しました。シネマジャック&ベティとの連携による「本牧映画特集」上映や、本事業から生まれた演劇作品「ギブ・ミー・チョコレート!」の海外における展開についての報告会も行いました。

今後の課題は、財政基盤の強化とリーダーとなる人材の確保です。住民一人ひとりの創意に満ちた活動を行う地域住民ボランティア組織・本牧アンバサダーや、本牧を知り尽くしたクリエイターによる本牧アートプロジェクト実行委員会と協働し、課題へ向き合っていきたいと思えます。

会期:2017年10月11日(水)~12月10日(日)
会場:横浜市立間門小学校、横浜市立本牧小学校、横浜市立本牧南小学校、本牧山頂公園、本牧エリア一帯、HONMOKU AREA-2 シアター1 / シアター2 / ホワイエ、ゴールデンカップ
来場者数:551人

参加アーティスト:宮内康乃、横手ありさ、PANTA、菊地琢己、内木里美、赤夜又(磯子工業高校ダンスサークルSWAG)、陽向さえか、桑山まり子、高田展弘、大月逸平、小林勇樹、イノウエタカヒコ、Heaven Hug Design、藤中一郎、大貫憲章、間瀬拓人、Magical Power Mako、Marcos Fernandes、武田理沙、榎 俊一、堀内道夫、平野貴人、三浦公道、石神夏希、嘉原 妙

主催:NPO法人Offsite Dance Project
共同主催:本牧アートプロジェクト実行委員会
共催:HOCS(本牧コミュニティ・ステーション)、マダカル・フェスティバル実行委員会
助成:子どもゆめ基金

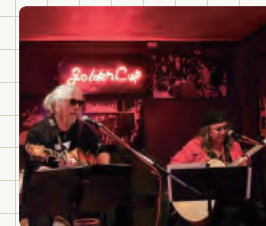
後援:大鳥中学校コミュニティハウス、本牧中学校コミュニティハウス
特別協賛:株式会社エスタディオホールディングス
協賛:kuusen、本牧玉家、株式会社 美濃屋あられ製造本舗、有限会社 大谷商店 電気部、株式会社 横浜君嶋屋、Honmoku Cake-ya yoko、本牧葬儀社 本牧ホール、秋山眼科医院、ようせいのいたずら、クラブバル ココペリ、Moani Hawaii、横浜ロイヤルホテル、大と根性ホルモン、天然ダンス工房、一般社団法人 ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館、マーケットテラスカフェ石川町、有限会社 西木金物店、合名会社 川本屋商店、有限会社 小林薬局、株式会社 バインパレー

撮影協力:ゴールデンカップ、MOONEYES Area-1/MOON Café
協力:神奈川県アーティスト・イン・レジデンス推進事業、シネマ ジャック&ベティ

実施イベント	実施日時	内容
キッズワークショップ	10月11日(水) ~10月21日(土)	
本牧AIR:間瀬拓人	11月11日(土)	
「Sky Variations」cyricle project	~12月10日(日)	
内木里美「こどもディスコ Season 3」	11月18日(土) ~12月9日(土)	
本牧の夜2017【PANTA】	12月1日(金)	
ジャック&ベティ「本牧映画特集」	12月9日(土) ~12月10日(日)	
本牧の夜2017【HONMOKU-NITE 藤中一郎×大貫憲章】	12月9日(土)	
石神夏希「本牧からアジアへ。ギブ・ミー・チョコレート!報告会」	12月10日(日)	



ワークショップ:宮内康乃と子どもたち @本牧山頂公園 撮影者/森日出夫



本牧の夜2017:PANTA @ゴールデンカップ



本牧の夜2017:HONMOKU-NITE 藤中一郎×大貫憲章 @HONMOKU AREA-2 撮影者/森日出夫

第19回金沢文庫芸術祭 「子供の未来は地球の未来」



金沢文庫芸術祭実行委員会

連絡先
URL <http://www.bunko-art.org>
E-mail info@bunko-art.org
TEL 045-788-9119
Facebook <https://www.facebook.com/bunkoart/>

団体紹介

「こどもの未来は地球の未来」をスローガンとし、年齢、職業、地域、問わず小学生からプロのアーティストまで様々なメンバー約50人で活動しています。参加者全てに新しい刺激を与え、地元の文化としてみんなから必要とされるイベントに育てたいと思います。



アサバフェス 子ども仮装ファッションショー

みんなでつくりあげていく 手作りの芸術祭も19回目

金沢区・海の公園をメイン会場の一つとする金沢文庫芸術祭も19回目。今回は初めて荒天に見舞われ、オープニングフェスティバルの中止を余儀なくされました。毎年多くの出展者に支えられていることから、順延等の代替案も検討しましたが、最終的には子どもたちの安全を第一に考え中止を決定しました。

さらに、この日は沖縄県南城市の交流大使である影絵パフォーマンス「やどかりの夢」公演が予定されていました。私たちが事前に沖縄で出張ワークショップを行うなど交流を重ね、今回の目玉企画でもあったので、せめて公演だけでも実施できないかと考えていたところ、近隣の文庫小学校が体育館を会場として提供してくれることになり、ミニオープニングフェスティバルとして開催しました。日常の中で協力体制を築いてきたことが実現につながったのだと思います。

当日は「子ども大型絵画プロジェクト」で各地の子どもたちと描いてきた絵を会場に飾り、ステージパフォーマンスや、

ライブペインティングなどいくつかの企画を実施し、ささやかながらも芸術祭のオープニングを祝うことができました。

区内のギャラリーやカフェ等を会場にしたアートラリーでは、地元で活動するアーティストを中心にライブ、作品展示、ワークショップなど23の催しが集まりました。また今回は、より地域に根差した活動を行うため、スタッフのためのイベント・アサバフェスを開催しました。私たちは地域住民を中心に構成される実行委員会ですが、人数が多いため、全員がやりがいを見つけて自主的に企画に取り組むには仕掛けが必要です。アサバフェスではファッションショーなど子どもをメインにした企画を行うことで、キッズスタッフが自ら企画を展開するための下地作りを行いました。

今回はついに20回目です。これまでの集大成となるようなイベントを企画すると同時に、今年度に生じたトラブルを貴重な経験として受け止め、さらなる出展者への配慮や、スタッフ育成などに努めたいと考えています。

会期：2017年7月1日(土)～10月22日(日)
会場：横浜市立文庫小学校、金沢区近郊各所、アサバアートスクエア ほか
来場者数：3,820人

参加アーティスト：やどかりの夢一座、ロコ・サトシ、はち、RISO、村山二郎、アーリーダンス カプリオル

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会
共催：公益財団法人横浜市緑の協会
後援：横浜市金沢区役所、神奈川県教育委員会、横浜金沢観光協会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、tvk(テレビ神奈川)
協賛：株式会社ミックコーポレーション、京葉Kidsアカデミー、アサバアートスクエア、池川クリニック、株式会社エッチアールディ、大成整形外科クリニック、風美容院、カトリック金沢教会、神奈川トヨタ自動車 金沢店、一般社団法人金沢区三師会、金沢白百合幼稚園、金八家、株式会社臨海サービス、cafe&bar EN、まいど金沢文庫店、啓進塾 金沢文庫校、昭和精工株式会社、山本助産院、医療法人社団森クリニック、むとう教材店、ふみくら茶屋、パレットプラザ金沢文庫、ばおば、吉田製麺店、株式会社ハウスレーベル、桜井歯科医院、白山 東光禅寺、ルンビニわらべ園、焼鳥番長、zin ギター工房、セレモホール金沢文庫、dan design、焼鳥 修、居酒屋 楽、Hi!鍼灸整骨院、くま薬局、飯鉢 称名寺店、かわせみの庄、浜坂医院、一般社団法人金沢まごころの会、三ツ木屋商店、vegan sweets&cafe ASABA、ジャパニーズダイニングNOBU、スキマキッチン、ピース玉の世界 船山 政志、アトリエ佳 松屋和子
協力：愛と勇気とさま実行委員会、Microtacs、M&N、SLOWNIN、Taguchi craftec、ブレインバスター太陽光音響、BE-IN、ABURABITO、I LOVE YOKOHAMA、横浜市立文庫小学校、横浜市立金沢小学校、西薬商店街、西薬町内会、谷津町内会、掛田商店、Taguchi craftec、Microtacs、M&N、SLOWNIN、ガーディアンエンジェルス

実施イベント
7月1日(土) 子ども大型絵画プロジェクト
～8月31日(木)
8月11日(金) やどかりの夢公演 & 金沢文庫芸術祭出張ワークショップ
9月17日(日) ミニオープニングフェスティバル
9月17日(日) アートラリー
～10月22日(日)
10月15日(日) アサバフェス



ミニオープニングフェスティバル
金沢紙芝居の会 かなみん公演



ミニオープニングフェスティバル
先住民族広場に葦舟がやってきた



子ども大型絵画プロジェクト
文庫幼稚園のみんなで
ステージバック制作

西区 第18回手づくり紙芝居コンクール



紙芝居文化推進協議会

連絡先
URL <https://kamibunkyo.jimdo.com/>
TEL 080-5504-6168

団体紹介

神奈川県立図書館が20年間実施してきたコンクールが諸事情で休止することになったのを惜しみ、存続を願う市民、企業が協力して設立。会員は全国におり、コンクールの他、公演・講座の企画運営や広報誌の発行などにより、紙芝居を普及する活動をしています。



全国・海外から290点の応募

国内外から横浜に紙芝居がやってきた

今回も手作り紙芝居のコンクールと図書館での実演、昨年度からスタートした指導者研修&交流会を行いました。コンクールは、今回も国内外から、年齢も3歳から80歳まで幅広い層の応募がありました。テーマもオリジナルの物語や地域に伝わる民話、自らの思い出、観客参加型のクイズ形式など多岐にわたり、それらを表現するための手作りならではの工夫も満載です。

指導者研修会は、参加者が自らの関わる施設で市民サークルの立ち上げを目標にした紙芝居講座を実施したり、鶴見区に自主サークルが2つ誕生したりと嬉しい成果がありました。手作り紙芝居に触れる人が増えた結果、応募数がジュニアの部では147点、一般の部では過去最高の143点となりました。

回を重ねるにつれベテランの作者による充実した作品が増える一方、初めて作られた作品も多く、コンクールが人々の創作のきっかけや継続の目標になっていることが、作品に添付されたメッセージからも読み取れます。また、

授業内で紙芝居作りに取り組む横浜市の小学校も増えてきました。夏休みを利用して制作に励んだり、コンクール後も継続して地域で実演を重ねたりと、生活の中で手作り紙芝居に親しんでいるようです。中には、先生がコンクールに来場したことがきっかけとなったというクラスもあり、情報発信の重要性をあらためて感じました。

コンクールの会場では、実演・審査・表彰だけでなく紙芝居作家・実演家からアドバイスがもらえる「紙芝居クリニック」と全応募作品290点の展示会も実施しました。実演会では、耳の不自由な来場者に気付いて、急遽手話を交えた紙芝居上演をした方、車椅子で登壇して自作を披露してくれた小学生など、会場の誰もが当たり前に分け隔てなく紙芝居を楽しむ時間が生まれました。スタッフの人手不足や運営資金の確保など、引き続きの課題もありますが、今後も地域に根差した横浜らしい事業になっていくことを目指し、活動を続けていきます。

会期：2017年7月13日(木)～12月12日(火)
会場：横浜市市民活動支援センター ワークショップ広場、
横浜市立南図書館 会議室、神奈川県立青少年センター
多目的プラザ、神奈川県立図書館 本館1階会議室、
横浜市西区福祉保健活動拠点
来場者数：1,478人

参加アーティスト：長野ヒデ子、やべみつり、ときわひろみ、宮崎二美枝

主催：紙芝居文化推進協議会
共催：神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館
後援：神奈川県図書館協会、神奈川新聞社、子どもの文化研究所、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市文化観光局
協力：京浜急行株式会社、べんてる株式会社

実施イベント
7月13日(木) 手作り紙芝居指導者 研修&交流会
11月5日(日) 手作り紙芝居ライブ①
11月18日(土) 手作り紙芝居ライブ②
11月25日(土) あなたが主役の実演会
11月25日(土) 紙芝居クリニック
11月26日(日) 手作り紙芝居コンクール本審査会
11月26日(土) 全応募作品の展示会
～11月26日(日)
11月26日(日) 過去の入賞作品展示会
12月12日(火) 横浜市長賞受賞作品 発表会



ブレ・イベント—だれもが共に楽しむ実演会に



笑顔の入賞者たち



ユーモアたっぷりの実演に満員の会場が拍手喝采



ジュニアの部横浜市長賞は、南区の3年生



小学生の作品『お金をためたい』にプロがアドバイス

「踊る旧劇場」
～クリエイターオフィスのオープンスタジオ～



旧劇場オープンスタジオ実行委員会

団体紹介

連絡先
URL <http://qgekijo.net>
E-MAIL info@qgekijo.net
TEL 050-5579-8964
Facebook <https://www.facebook.com/qgekijo.net/>

シェアスタジオ・旧劇場は、黄金町のストリップ劇場跡に14年に設立。建築家、大工、写真家、ライター、ラジオディレクター、音楽レーベル主宰者らが、黄金町や伊勢佐木町、関内の地域拠点と連携しながら、場づくりや情報発信のプロジェクトを進めています。



踊る旧劇場第2回Unplugged Live

かつてのストリップ劇場が
新たな創造拠点に生まれ変わる

旧劇場は、若手のアーティストやクリエイターが増えた黄金町と、歴史ある商店街・イセザキモールを有する伊勢佐木町に挟まれたエリアに建つ、かつてストリップ劇場であった建物を改装したシェアスタジオです。建物のもつ歴史そのものが地域に公開されるとともに、地域の中での建物の存在価値が「子どもから大人まで誰もが関われる場所へ」と変わることを期待し、今年はスタジオメンバーによる地域に開かれたイベントを開催しました。大工・設計事務所・ライター・写真家・音楽レーベル主宰・ラジオディレクターなど、メンバーそれぞれの職能を活かすことでバラエティ豊かなプログラムにて展開しました。

へ開くため、横浜ならではの生活文化を体験できるフェスティバル「関内外OPEN!9」へ参加し、クリエイターのスタジオを見学できるオープンスタジオと建築に関わる多様な専門性を持った専門家を多数招いたプレゼンテーション&トークセッションを開催しました。

このほか、マイク・スピーカー・アンプ一切不使用の「完全アンプラグド」ライブや、間伐材を使った木工ワークショップ、ラジオを制作する舞台裏についてのトークイベントなどを開催。イベントをきっかけに、多くの人が旧劇場を訪れました。現在も内装の一部はかつての面影を残しているため、来場者は建物の歴史も併せて体験する機会になりました。地域の中でもなかなか立ち入る機会のない場所に訪れるきっかけを生み出したという点で、一定の成果はあったと考えています。

旧劇場は今年度で4年間の活動に幕を下ろしますが、今後も、このまちが持つ独特の文化を支えていきたいと考えています。

「公開インタビュー『たたみかたのつくりかた』」は、30代のための社会文芸誌「たたみかた」を発刊する「アタシ社」の三根かよこへの公開インタビューを実施。30代のクリエイターを中心に、情報発信や場作り、教育に携わる方、大学生などの読者が集いました。より地域

会期：2017年7月21日(金)～2018年1月20日(土)
会場：旧劇場
来場者数：135人

参加アーティスト：永田賢一郎、加藤直樹、齊藤真菜、住吉かほり、原崎寛明、北林さなえ、劉功眞、加藤甫、星崎直也、安田周一、三根かよこ、見田村千晴、シェア、元松美紅、森元気、丸山裕貴、鈴木知悠、小泉瑛一、神永侑子、佐藤桂火、須藤剛、香月真大、和田隆介、nitou、島貫鉄平、上條医、横塚荘、Yoshio Machida :Cal Lyall、HABUTO

主催：旧劇場オープンスタジオ実行委員会

実施イベント
7月21日(金) 公開インタビュー「たたみかたのつくりかた」
8月26日(土) ライブイベント「Untitled Room」
9月23日(土) オープンスタジオ
9月23日(土) Unplugged live
11月4日(土) 関内外OPEN!協力企画
オープンスタジオ&ツアー
11月4日(土) 若手建築家12名によるトークセッション
"after Parallel Session"
12月9日(土) ラジオ業界の若手が語るトークイベント
「ラジオの過去、現在、未来」
1月20日(土) 山北の間伐材を用いた木工ワークショップ
1月20日(土) ライブイベント「Untitled Room」



Untitled roomのパフォーマンス風景1



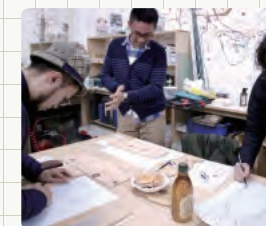
Untitled roomのパフォーマンス風景2



踊る旧劇場第1回
「たたみかたのつくりかた」
公開インタビュー



踊る旧劇場第3回
建築家トークセッション
after Parallel Session



踊る旧劇場第5回
山北の間伐材を用いた
木工ワークショップ



さかえegaoプロジェクト

連絡先
 URL <http://ega-oproject.com/images/top-hp-c.png>
 E-MAIL chikatuegao@wind.ocn.ne.jp
 TEL 045-392-7601
 Facebook <https://www.facebook.com/sakaeeagaoproject/>

団体紹介

さかえegaoプロジェクトは栄区内の8福祉事業所と栄区にゆかりのあるアーティストがコラボレーションでモノづくりを行い販売するプロジェクトです。誰もがアートを楽しみ繋がることを目指しています。



栄区を中心とした市民1000人以上で作上げた会場および企画

福祉、学校、アートが繋がり
 笑顔溢れる一日

栄区の福祉施設とアーティストが連携して行う「さかえegaoフェスティバル」も今年度で5回目。事前にアーティストが区内のさまざまな施設で美術ワークショップを実施し、栄公会堂でのメインイベントにつなげました。

今回のメインアーティストは、栄区で活動する現代美術家・ASADAが担当。地域のお祭りや学校、学童保育等とコラボレーションし、ガイコツのヘルメットをかぶって自分の本音を叫ぶ「100の叫びワークショップ」や、パラバラ漫画のような動画の素材となる「塗り絵1000枚チャレンジワークショップ」を実施。出来上がった動画は、メインイベント時にホールで上映を行いました。

メインイベントは、誰もが参加できるアート・スポーツの祭典「パラフェスタ♡さかえ」と連携。会場内は、事前ワークショップに集まった地域の人々の手で装飾され、カラフルなマスコット「ビニテ人間」が来場者を迎え入れました。午前中は本郷中学校吹奏楽部の演奏や、コン

サートなどを開催。今回はステージをホールからロビーに変更し、会場全体に一体感を生み出すことに成功しました。前回に引き続きパフォーマンス、絵画、造形のコンテストも実施。福祉事業所から生まれるアートとしては、5つの福祉事業所にアーティストが一名ずつ入り制作した作品を展示しました。午後からは、アーティストによるワークショップも開催。中でも、ホール内の暗間を活かした「光る羽」や、特殊な光で文字を読む「スパイペン」は子どもたちに大人気でした。スタンプラリーやライブアート、福祉施設で作られた雑貨や飲食の販売も行い、にぎやかな一日となりました。多くの人々を巻き込み、アートの楽しさを共有できたことが最大の成果です。

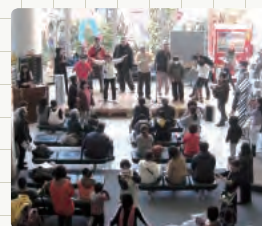
実施回数を重ね、イベントの規模が拡大してきたことで、スタッフの役割分担など運営体制を見直す必要を感じています。また、経済的な面では参加アーティストの好意で成り立っている部分もあり、今後も財源確保が課題です。

会期：2017年11月11日(土)～2018年1月27日(土)
 会場：横浜市立本郷中学、桂台地域ケアプラザ、横浜市立本郷台小学校、公田学童保育、栄区役所、わ～くらふ・さかえ、まつてる、かつら工房・さんらいず、地域活動支援センターegao、びっころんど、栄公会堂 ほか
 来場者数：2,985人

参加アーティスト：ASADA、海淵恵理、高橋寛行、佐野由美、石黒陽子、松本光代、栗原俊子

主催：さかえegaoプロジェクト
 共催：横浜市栄区役所
 後援：横浜市栄区社会福祉協議会
 協力：轟音楽団

実施イベント	
11月11日(土)、11月19日(日)、12月4日(月)～1月10日(水)	塗り絵1000枚チャレンジWS 100の叫びWS
1月20日(土)～1月21日(日)	会場作りWS
1月21日(日)～1月27日(土)	コンテスト作品展示
1月27日(土)	さかえegaoフェスティバル



パフォーマンスコンテスト。出場者の喜ぶ顔も多く見られた



粘土作家による粘土アートワークショップ



ビニールテープを使ったワークショップ



さかえdeつながるアート

連絡先
URL <http://www.sakae-art.jp>
E-mail sakae.art2008@gmail.com
TEL 080-4150-2700
Facebook <http://www.facebook.com/sakaedetsunagaruart>

団体紹介

栄区で地域とアートをつなげる活動を行う市民グループ。コミュニティアートの手法を活かし地域での豊かな暮らしを目指します。施設や行政・学校などから、アートイベントの企画協力、アーティストとのコーディネート依頼なども多くなり、幅広い活動を展開中。



展示会場風景

会期：2017年7月16日(日)～11月26日(日)
会場：栄区民文化センター リリス 会議室／ギャラリーA
来場者数：510人

参加アーティスト：竹本真紀、前田友佳、藤本直紀、上平崇仁、佐藤良仁、MazKen

主催：さかえdeつながるアート

共催：ティーンズクリエイション組織委員会(さかえdeつながるアート、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、公益社団法人かながわデザイン機構、中学校地域交流室「オレンジの会」、栄区民文化センター リリス

後援：横浜市栄区役所

協賛：石井造園株式会社

協力：神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすばらざ」、株式会社 タウンニュース社、公益社団法人日本広告制作協会ローポノ支援隊、ほか

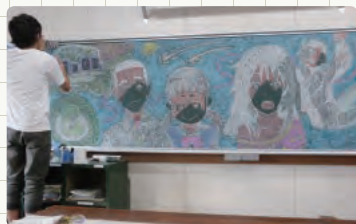
実施イベント
7月16日(日) おとなのキャリア教育講座Ⅱ
「社会のものが変わるとき～未来のために今夜の親子の会話はどうかあるべきか」
11月22日(水) ティーンズクリエイション展
～11月26日(日) 「Wakamono Arts Festival」展示
11月25日(土) 創造体験ワークショップ
「オリジナルアクセサリー作り」
11月25日(土) 「おとなとわかもの」のキャリア教育講座
11月26日(日) 創造体験ワークショップ
「自分のマーク作りにレッツチャレンジ!」
11月26日(日) アートサイトラウンジvol.16
～地域で次代を育むこと

「わかもの」と一緒に企画から考える さまざまな世代を交えた「なんでもぶんかさい」

私たちが2012年から積み重ねてきた活動に「ティーンズクリエイション」という青少年に向けた企画があります。今回は、3年ぶりに総合文化フェスティバル「ティーンズクリエイション展」を開催。「Wakamono Arts Festival」というタイトルをつけ、市内外から作品を募集。中学生、高校生世代を「わかもの」と表現し、企画段階から協力し合う仕組みを作りました。「わかもの」たちは難しい年代とも言われますが、自分の生きていく道を悩み考える貴重な年代です。

事前に保護者向けに「おとなのキャリア教育講座」を開催。若い世代がクリエイティビティを失わず、自分らしい生き方を考えていけるように、大人としてできることを学び合う場となりました。作品公募は栄区青少年の地域活動拠点・フレンズ☆SAKAEを通じて知り合った高校生・大学生がスタッフとして企画会議に参加。半年間、クリエイターと共に企画のアイデアを出し合い、アーティスト

との交渉や広報活動を行いました。オリジナルアクセサリー作りのワークショップや黒板アート作品づくりなどは企画に関わった「わかもの」の興味から生まれました。展示期間には、栄区民文化センター リリスのギャラリーで市内外から集まった約90点の文化的作品を一挙に公開。地域住民が「わかもの」のアート活動に触れる貴重な機会となりました。また、食品サンプルや草木染め、フィギュアなど学校の美術展示ではなかなか見られない作品が並び、来場者からも好評でした。学校関係者も来場し、開催の意義を確認してくれたことは大きな成果です。そのほか、参加者が作ったマークをクリエイターが仕上げる企画やトークイベントも開催し「わかもの」のクリエイティビティとイメージを刺激しました。今後は、学校や行政、企業等の主体的な参加を促し、地域と社会が一体となって「わかもの」がアートとつながり、自分の生き方や仕事について考え、その可能性を育てていける環境を生み出していきます。



黒板アート制作風景



オリジナルアクセサリー作り

アートサイトラウンジvol.16
～地域で次代を育むこと展示会場
…大植高校復興研究会卒業生の
展示説明

SLOW ACADEMY

福祉施設と地域コミュニティをつなぐ ワークショップ



特定非営利活動法人 スローレーベル

連絡先
URL <http://www.slowlabel.info/>
E-MAIL mail@slowlabel.info
Facebook <https://www.facebook.com/SLOWLABEL.info/>
Twitter https://twitter.com/slow_label

団体紹介

ものづくりやアートを用いて、障害のある人とない人の出会いの場と協働の機会を創出し、相互理解を促す。障がいのある人とない人との間の壁をなくし、あらゆる人々が居場所や役割を見出すことができるボーダレスな社会づくりを目指します。



参加者も「スイッチ」の演者に挑戦した

アーティストが 福祉施設に飛び込む

今年度は、これまでに関係性を築いてきた「かたるべ会」と「港南福祉ホーム」という二つの福祉団体と連携し、音楽と演劇のワークショップを開催しました。これまで障害のある人と一緒に活動をしたことがないアーティストをあえて選定。アーティストと施設職員を含めた打ち合わせを重ね、実施に臨みました。

「かたるべ会」は横浜市を拠点に、知的、精神、身体に障害のある方の就労支援・生活支援を柱に活動し、パンジョーククラブや劇団など表現活動にも積極的に取り組んでいます。今回は都筑区の障害福祉サービス事業所「うれしの」を会場に、音楽ワークショップを行いました。参加者それぞれが思いついた言葉を共有し、歌詞としてつなげ、作業所の目玉商品であるピザをモチーフにした商業ソングを創作。パンジョーや演劇などをミックスした愉快的パフォーマンスに仕立て、ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017の会場や象の鼻テラスでのライブでも披露しました。

また、港南福祉ホームで行った演劇ワークショップでは、スイッチという3秒～30秒の小さな演劇を体験。その後、チームに分かれてオリジナルのスイッチを開発、発表しました。どのチームも、メンバーの個性が光る作品を生み出しました。

ワークショップには施設のボランティアや活動に興味のある一般市民、職員の子どもなどが参加し、多様な人々が交わる場となりました。また、外部からアーティストが関わることで、施設利用者や職員等がお互いのこれまで知らなかった面を発見する機会となったようです。アーティストからは新たな挑戦であったとともに、自身の活動の幅を広げられたという感想があり、参加者、アーティスト双方の学びの場として、非常に可能性を感じる結果となりました。一方、地域住民への情報周知や巻き込み方には課題が残ります。今回の取組を基礎に、幼稚園や公民館、学校等を巻き込み、地域ぐるみの活動として発展させたいと考えています。

会期：2017年7月6日(木)～2018年1月21日(日)
会場：うれしの、港南福祉ホーム、横浜医療福祉センター港南、象の鼻テラス
来場者数：135人
参加アーティスト：青木拓磨、大道朋奈、スイッチ総研(光瀬指絵、大石将弘)
主催：特定非営利活動法人スローレーベル
協力：港南福祉ホーム、かたるべ会、横浜医療福祉センター港南、象の鼻テラス

実施イベント	
7月6日(木)	音楽ワークショップ 第1回
7月22日(土)	音楽ワークショップ 第2回
8月5日(土)	音楽ワークショップ 第3回
8月21日(月)	音楽ワークショップ 第4回
9月14日(木)	音楽ワークショップ 第5回
9月18日(月)	音楽ワークショップ 第6回
11月28日(火)	演劇ワークショップ 第1回
12月11日(月)	演劇ワークショップ 第2回
1月12日(金)	演劇ワークショップ 第3回(発表含む)
1月21日(日)	音楽ワークショップ 発表



音楽ワークショップの様子



演劇ワークショップの様子。
まずは身体を動かし、
リラックスしてワークショップに臨んだ



最後には参加者がそれぞれ
アイデアを出し合い、
オリジナルスイッチを完成させた。



NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

連絡先
URL <http://ashiato-dagakki.jp/>
E-MAIL info@ashiato-dagakki.jp
TEL 03-3762-6335
Facebook <https://m.facebook.com/profile.php?id=153446633343240&ref=bookmark>

団体紹介

「子供たちに生の音楽を」をモットーに東京芸術大学卒の池野ひとみを中心に2001年結成。のべ400カ所、4万人の子供たちに打楽器の参加型のコンサートを行っています。東京近郊のみならず、被災者支援演奏など全国巡回中。2013年NPO法人化。



母親と子供で作ったオリジナル太鼓を持ってコンサートを楽しむ 撮影者/内山浩二

親、子ども、支援施設をつなげる
打楽器の音色

今年度も様々な状況下の子育て中の保護者、保育者、子ども達にむけた本格打楽器コンサートを出張開催しました。訪問施設を増やしたことで、新たな環境下の子どもたちにも出会えました。実際に現場に向かうことで、待機児童、DV被害の母子、不登校児、障害児たちが抱えている権利擁護等の社会問題に直面している現場が多いということを感じました。

コンサートの前にはオリジナル楽器製作ワークショップを実施。パーツを組み合わせて太鼓を作り、ビーズやマスキングテープなどでデコレーションを施すことで、親子で協力し、話し合う時間を生み出しました。子どもをサポートする大人も、いつしか童心に帰って創作活動に集中していました。また太鼓の胴部分には、ヨコハマアートサイト参加団体であるアーティストネットワーク+コンパスの協力を得て、印刷会社から腐材のインク缶を提供いただきました。オリジナル楽器を作った後は、打楽器奏者による生演奏

を間近で楽しみ、世界の打楽器紹介や、作った楽器での合奏を体験します。今年度はパフォーマンスにも力を入れ、舞台と客席の境界がなくなるような演出を凝らしました。

今回はコンサートを土日祝日に設定することで、共働きによる親子の触れ合いの時間の短さを解消する一助となりました。また、前回に引き続き、マザーズハローワークとの提携により、コンサート会場で気軽に職業相談ができる窓口を設置。来場者の中には、コンサートをきっかけにケアプラザが子育ての悩みを相談できる場所の一つだと認識したという人もいました。孤立しがちな子育て中の保護者が社会とつながる回路を増やせたことは嬉しい成果です。

会場となる各施設や団体との連携は年々深まり、知名度の向上にもつながっています。一方で、継続開催については財政的課題が残ります。解決のためには、予算を含めて計画段階から協働し、互いに当事者意識を持つことが必要だと感じています。

会期：2017年7月27日(木)～2018年1月26日(金)

会場：聖母愛児園、フリースペースみなみ、睦母子生活支援施設、こども医療センター、竹之丸地区センター、新山下二丁目保育所、中区子育て支援拠点「のんびりんこ」、下倉田地域ケアプラザ、横浜市南部地域療育センター、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、浦舟地域ケアプラザ、ほどがや活動支援センターアワーズ、新山下地域ケアプラザ

来場者数：855人

参加アーティスト：池野ひとみ、半谷麻意子、神本愛子

主催：NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

共同主催：みなみ青少年地域活動拠点ハートフルみなみ(フリースペースみなみ)、睦母子支援施設、ひよこの会、中区子育て支援拠点「のんびりんこ」、こどもみらい横浜、新山下地域ケアプラザ

共催：聖母愛児園、訓練会すてっぷ、下倉田地域ケアプラザ、下倉田地区社会福祉協議会、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、浦舟地域ケアプラザ

協力：マザーズハローワーク横浜、新山下二丁目保育所、こども医療センター、竹之丸地区センター、横浜訓盲学院

実施イベント

7月27日(木)、8月3日(木)、
8月27日(日)、8月30日(水)、
9月2日(土)、10月13日(金)、
11月3日(金)、11月8日(水)、
11月25日(土)、1月10日(水)、
1月13日(土)、1月14日(日)、
1月26日(金)
こころに響く打楽器作っちゃおう



子供の輝かしい未来のために
必要なアート
撮影者/内山浩二



本格打楽器コンサート
撮影者/内山浩二



豊富な演出・内容で
コンサートを盛り上げる
撮影者/勝木真樹子



NPO法人都筑民家園管理運営委員会

連絡先
URL <http://tminkaen.org/>
E-mail tminkaen@galaxy.ocn.ne.jp
TEL 045-594-1723

団体紹介

都筑民家園は、地元7町内会の会長経験者や文化活動協力者グループで運営、アート月間の一つとして地域の学校とアーティストの交流を通じ地域の財産である遺跡公園、民家園を舞台に「コミュニティアート」を通じ、親しみやすい芸術文化交流を目指し活動しています。



「つなぐベンチ」作品展示

会期：2017年7月26日(水)～9月7日(木)

会場：横浜市歴史博物館・工房、都筑民家園、大塚歳勝土
遺跡公園・芝生広場

来場者数：3,482人

参加アーティスト：久村卓、藤井志帆、井上健

主催：NPO法人都筑民家園管理運営委員会

共催：横浜市歴史博物館、博物館デビュー支援事業実行委員会、横浜市都筑区

後援：都筑区ふるさとづくり委員会

協力：横浜市環境創造局、横浜国立中川中学校、横浜国立中川西中学校、横浜国立すみれが丘小学校

実施イベント

7月26日(水) 小中学校連携アートワークショップ

～7月28日(金)

8月3日(木) 中学校美術部アートワークショップ

～8月4日(金)

8月5日(土) わたしたちの「島と星座とガラパゴス」作品展示

～9月7日(木)

8月6日(土) 「つなぐベンチ」作品展示

～9月7日(木)

わたしたちの「島と星座とガラパゴス」
制作風景わたしたちの「島と星座とガラパゴス」
全員集合わたしたちの「島と星座とガラパゴス」
作品展示

「つなぐベンチ」作品部材の完成!



「つなぐベンチ」制作風景

生きる力、創造する力を育む
小学生と中学生の美術ワークショップ

地域と文化の繋ぎ手になれるような活動を目指し、これまで中川中学校と中川西中学校の美術部による連携ワークショップを企画してきた本プロジェクトですが、今年度はさらに小学校との連携にチャレンジしました。

中川西中学校美術部とすみれが丘小学校有志児童によるワークショップでは、ヨコハマトリエナーレの開催年ということを活かし、タイトルである「島と星座とガラパゴス」をテーマに作品作りを行いました。材料はカラーワイヤーと都筑区の名産である竹。子どもたちは4つのグループに分かれ、それぞれテーマについて議論しながら、作品プランを完成させました。初めての試みに心配もありましたが、いざ手を動かし始めると自然と中学生がリーダーシップをとり、順調に進んでいったので驚きました。年齢幅があるからこそ、役割分担や責任感が生まれたのでしょう。また、昼食時には先生方のアイデアにより、スイカ割りや流し素麺などのお楽しみ企画を実施。

なかなか日常生活では接することのない小学生と中学生が濃密なコミュニケーションを図る三日間となりました。出来上がった作品は、都筑民家園の主屋に展示し、子どもたちも楽しそうに他のグループの作品を見合っていました。

もうひとつのチャレンジは、中川中学校美術部と美術家・久村卓によるワークショップです。風化したベンチにカラフルな補修をしてアートなベンチとしてよみがえらせようという試みです。ベンチを、その傷を活かすことで作品化するというプロセスは、物の歴史に向き合うと同時に、古代からの歴史が残る港北ニュータウンだからこそ、地域とつながる一歩でもあります。「公共空間に設置する美術作品」という課題は、新鮮な響きを与えたようで、どの生徒も集中して取り組む姿が印象的でした。完成作品はパブリックアートとして大塚歳勝土遺跡公園・芝生広場に展示することができました。

つなぐプロジェクト縁
実行委員会

連絡先
E-MAIL tsunagu.en@gmail.com
Facebook <http://fb.com/245251235971374>

団体紹介

障害者支援の概念を崩すotto&orabuの演奏は、障害者への偏見や、障害者支援に携わる人々の意識、障害者自身の意識に対して大きな揺らぎを与えることができるように思います。このイベントでつなぐプロジェクト縁は、横浜に新しい風を取り込んでいきます。



全員集合

会期：2017年12月2日(土)～12月23日(土)
会場：横浜市立港南台ひの特別支援学校
来場者数：295人

参加アーティスト：otto&orabu

主催：つなぐプロジェクト縁実行委員会
後援：横浜市教育委員会、横浜市健康福祉局
協力：DRIGINAL WEAR BLAST、横浜港南台ロータリークラブ

実施イベント
12月2日(土) 「幸福は日々の中に。」上映会
12月23日(土) otto&orabuコンサート

障害のある人、ない人
支援者を繋げるパーカッション

つなぐプロジェクト縁は横浜市立港南台ひの特別支援学校の教員を中心に発足した団体です。初年度となる今回は、鹿児島県鹿児島市にある社会福祉法人太陽の会が運営する「しょうぶ学園」の音パフォーマンス集団・otto & orabuを横浜に招いて、港南台ひの特別支援学校でのコンサートを開催しました。施設職員と利用者による力強く繊細なパフォーマンスを通じて、障害のある人・障害のある人と関わっている人・障害のある人と関わりのない人の三者がつながるきっかけになればと思い、実施しました。地域の人々は、教員がこうした活動を行うことに驚いていたようです。

コンサートをを行う前には、プレイベントとして、しょうぶ学園の日常を追ったドキュメンタリー映画「幸福は日々の中に。」の上映会を開催。上映中は笑い声なども漏れ、映画から伝わる優しい空気に包まれた会場となりました。また、オリジナルTシャツの作成・販売や、栄区でのイベント出店を

通して広報活動を展開し、支援の輪を広げました。直接受け取った応援メッセージは活動の励みとなりました。

コンサート当日は、来場者全員がのびのびとコンサートを楽しむため、ステージの前にスペースを用意。客席に座って鑑賞するだけでなく、湧き上がる衝動を抑えずにアーティストと一緒に自由に踊ったり、歌ったりできるダンスエリアとしました。民族楽器のリズムと音楽のうねりに会場全体が包まれる中、ダンスエリアで力いっぱい踊る子どもの姿が印象的でした。障害の有無に関わらず、それぞれが互いの表現を尊重し合うことで、地域の中でも障害に対する理解が高まるきっかけとなったように思います。来場者のアンケートからも、otto & orabuの演奏を聞いて、そのエネルギーを存分に感じられた様子が伝わってきました。

今後も、障害者の持っている表現力やエネルギーを感じ、関わった人々が障害への理解や新たな視点を持つきっかけとなるような事業を模索し、展開していきます。



「幸福は日々の中に。」上映会の様子



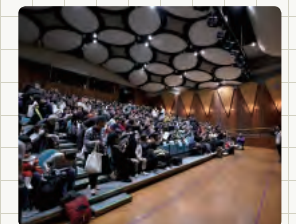
otto & orabu



舞台上で踊る子どもたち



子どもたちもコンサートに参加



終演後の様子



一般財団法人
日本京劇振興協会

連絡先
URL <http://www.shincyo.com>
E-MAIL ticket@shincyo.com
TEL 03-6411-4168
Facebook <https://www.facebook.com/nihonkyogeki/>

団体紹介

祖父の代より3代京劇一家の張春祥が日本での京劇普及を目的に1996年設立。在日の中国人京劇俳優と日本人俳優とで構成され、伝統京劇の上演のみならず、一般向けワークショップ、日本語セリフでの京劇上演、日本伝統芸である能とのコラボなども行っています。



こども京劇

会期：2017年11月11日(土)～2018年1月8日(月)
会場：横浜山手中華学校、横浜市立ろう特別支援学校、
あーすぶらざ・プラザホール
来場者数：259人

参加アーティスト：張春祥、張桂琴、石山雄太、侯偉、劉東風、程孫耘、張島梅、衛藤俊和、張飛鳳、樋口理世、竹口美鈴、貴船恵子、茶谷力輝

主催：一般財団法人日本京劇振興協会
協力：神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)
助成：子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)

実施イベント
11月11日(土) 中華学校公開講座・京劇化粧
11月15日(水) アフタースクール・ワークショップ
11月18日(土) 公開講座・京劇演技
12月8日(金) ろう特別支援学校京劇上演
1月6日(土) 3日間で京劇俳優になろう!こども京劇
～1月8日(月)

京劇を通して
学校の門戸を開く

中国の伝統芸能・京劇を体験することで異文化交流や文化芸術への関心を高めることを目的に、今年度は3つの施設を会場に、それぞれ異なる取組を行いました。昨年度、上演とワークショップを行った横浜山手中華学校では京劇の部活動化に向け、アフタースクールで京劇体験を実施。小学校低学年を中心に京劇レクチャー・体験を行いました。また、昨年度の活動を経て、今回は一般参加者も受け入れての公開京劇講座を開催。本事業の目的のひとつである「学校の門戸を開くことによる地域協働」に向けて一歩前進しました。来年度には京劇部が発足することも決定しています。

劇団初となるろう特別支援学校での上演は、生徒の聴力にばらつきがあるということもあって、レクチャーの字幕を増やし、演技中に手話を入れることで対応しました。普段、異文化の舞台芸術に触れる機会の少ない生徒たちには印象強いものとなったようで、再演を望む感想が多く見受けられました。次回は、生徒との共演も視野に

入れプログラムを展開したいと考えています。

栄区では、発表会を含む三日間のワークショップを実施。13名の参加者の中には横浜山手中華学校でのレクチャー参加者の姿もあり、事業連動の重要性を感じました。当日は、京劇レクチャーと4プログラムの京劇実演で会場が盛り上がったところで、こども京劇の発表会。子どもたちは「西遊記 孫悟空VS白骨精」という演目で小猿役や小鬼役を演じ、自分たちで考えたポーズなどを披露しました。普段は引込み思案な子どもも、京劇の特徴でもある鮮やかなメイクと衣装に包まれると、堂々とした姿で客席からの拍手や歓声を全身で受け止めていました。参加者の保護者以外に地域の人も来場し、地域で異文化に触れる機会の一つとなりました。

日本では京劇の社会認知度が低く、京劇団の活動をしている人もほとんどいません。今後も効率的な広報の手段を模索し、より安定した運営ができれば努めます。



こども京劇 集合写真



横浜市立ろう特別支援学校での京劇公演



横浜山手中華学校・公開講座
京劇メイクワークショップ



横浜山手中華学校
アフタースクール



3日間で京劇俳優になろう!
ワークショップ



「土方巽1960しずかな家」
実行委員会

連絡先
URL <http://hijikata1960.yokohama/>
E-mail yanvalou.deetee@gmail.com
TEL 070-5518-1209

団体紹介

実行委員長の個人企画として始まった「土方巽 1960 しずかな家」を制作することに特化したチーム。個々が高いレベルのパフォーマーとして活動しているため、かなり幅広い人脈を持っているのが特徴です。今後は他団体との連携を視野に入りたいと考えています。



豪雨の中、観客は雨具に包まって観劇した(ソケリッサ!) 撮影者/ AFP 穂吉 洋子

会期: 2017年10月13日(金)~10月17日(火)
会場: 東福寺境内、シャノール、若葉町WHARF
来場者数: 109人

参加アーティスト: 新人Hソケリッサ!(伊藤春夫、横内真人、小磯松美、平川収一郎、渡邊芳治、諸星要、アオキ裕キ)、体現帝国(渡部剛己、櫻井春菜子、秋葉由麻、大野洋平、本間貴士、植村真)、伊藤文学、フラワー・メグ、康芳夫

主催: 「土方巽 1960 しずかな家」実行委員会
協力: 新人Hソケリッサ! 東京近郊路上ダンスツアー企画、体現帝国

実施イベント
10月13日(金) ソケリッサ!「日々荒野」ツアー
10月15日(日) トークイベント「甦るスペースカプセル」
10月15日(日) 星空映画上映会
10月17日(火) 体現帝国「班女」再演

まちに眠る
歴史的遺産を呼び起こす

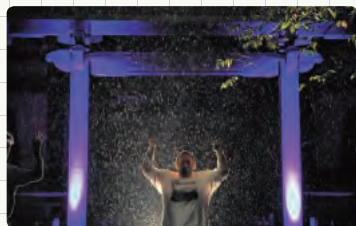
1960年に赤門町で暮らしていたという舞踏家・土方巽をアイコンとして地域の魅力を再発見するアートプロジェクトを行いました。メイン会場は、町名の由来でもある赤門を持つ東福寺です。この地域とアーティストが文化的な刺激を交換し合う場となることをねらい、境内でのダンス公演、演劇公演を行ったほか、近隣の施設にてトークイベントと映画の上映会を実施しました。

東福寺の境内を活用しての野外公演も今回で3度目。初めての夜間開催ということもあり。実施には地域住民の理解が不可欠でしたが、あたたかく受け入れていただき安心しました。公演時には町内会長も来場し、これまでの活動の成果を肌で感じた一コマでした。

路上生活者、路上生活経験者によるダンスグループ・新人Hソケリッサの公演「日々荒野。」は、雨天にもかかわらず「生きることに日々向き合う身体」を観客に提示しました。劇団 体現帝国による「班女」の再演では、琴の生演奏が夜

の境内に溶け込み、この場所ならではの魅力を放ちました。

トークイベント「蘇るスペースカプセル〜前衛舞踏と夜の街が手を繋いでいた時代」はシャノールライブハウス・日ノ出町シャノールにて開催。スペースカプセルは、黒川紀章が設計した1960年代末から数年間だけ営業していたクラブです。土方巽、寺山修司、宇野重吉良らが舞台を演出し、石原慎太郎、横尾忠則、岡本太郎が通ったこのお店を、当時現場にいた伊藤文学、フラワー・メグ、康芳夫らが語りました。当時の記録がほとんど残っていないこともあり、60年代の文化に興味を持つ人々が市内外から参加しました。若葉町WHARFでは短編映画「ラブラブROUTE21」、「浮世物語」を上映。今回のプロジェクトでは、複数のイベントを通して、いかがわしさや、芸術性、ある種のケガレなど多様性を内包したアートのかたちを提案しました。今後は地域との関わりという点をより意識し、周囲を巻き込むような仕掛けを生み出したいと考えています。



豪雨の中の公演(ソケリッサ!)
撮影者/ AFP 穂吉 洋子



ホームレスダンサーたちが
鎌倉時代創建のお寺で熱演(ソケリッサ!)
撮影者/ AFP 穂吉 洋子



50年間ニアミスで
この日が初対面だったという
伊藤文学、フラワー・メグ、康芳夫の三氏。



開演前、観客と演出家が仲良く
記念撮影(体現帝国)



ゲネプロ中の体現帝国女優陣



NPO法人ぶかぶか

連絡先
 URL <http://pukapuka-pan.xsrv.jp>
 E-MAIL pukapuka@ked.boglobe.ne.jp
 TEL 045-453-8511
 Facebook <https://www.facebook.com/pukapukapan>

団体紹介

障がいのある人たち40人ほどが働くパン屋、惣菜屋、アートスタジオ、カフェを運営。障がいのある人たちもそうでない人たちもお互い気持ちよく暮らせる社会を作っていきます。演劇ワークショップでは、障がいのある人たちと一緒に新しい文化を創り出します。



本番舞台のフィナーレ

障害のある人たちがいるからこそ
 おもしろい芝居ができる

今年度も、障害のある人たちの就労支援の場である「ぶかぶか」に集まるスタッフや地域の人々でオリジナルの演劇作品を制作。障害のある人たちと一緒につくりあげる舞台「表現の市場」にて上演しました。四回目となる今年度は宮沢賢治「注文の多い料理店」をミュージカルに仕立てました。全7回の演劇ワークショップには38人が参加。一人ひとりのアイデアを積み重ね、オリジナルのシーンをいくつも立ち上げました。年齢や障害の有無に関係なく、参加者それぞれの個性を活かすことで、まったく新しい「注文の多い料理店」が生まれました。衣装や舞台美術も手作りです。

「オールスターズ」によるラップが会場を盛り上げました。ロビーでは、脳性まひの店主が管むゆうじ屋のケーキ販売と、その店主がボーカルを務めるラブ・エロピースによるコンサートを開催。ステージ第二部では、個性あふれるぶかぶかのハーモニーを生演奏と共に届けました。

これまでの活動を通して、障害のある人たちがいるからこそ幅のあるおもしろい芝居ができる、ということがだんだん定着してきました。来場者も増え、SNSでのこまめな情報発信が功を奏し、北海道から九州まで全国各地からメッセージが寄せられるようになりました。ワークショップをやりたいというリクエストも届き、横浜を越えたつながりも生まれています。ここから社会が変わっていく、という手応えを感じています。

発表の場でもある「表現の市場」では市内外で活動する団体もパフォーマンスを披露。ステージ第一部では横浜市鶴見区知的障害児者親の会「ひよこ会」の余暇活動グループとして活動している「あらじん」による太鼓の演奏と、瀬谷養護学校大和東分教室で結成された「はっ

継続にあたっては、収益を上げることが難しい事業であるため、運営費用の獲得が課題です。今後は、利用者のアートを活かし、企業向けにアプローチするなど資金調達の方法を模索していきます。

会期：2017年8月19日(土)～2018年1月21日(日)
 会場：緑区民文化センター みどりアートパーク リハーサル室／舞台
 来場者数：594人
 参加アーティスト：NPO法人ぶかぶか
 主催：NPO法人ぶかぶか
 共催：緑区民文化センター みどりアートパーク
 後援：緑区社会福祉協議会
 協力：演劇デザインギルド、デフパペットシアターひとみ、オペラシアターこんにやく座

実施イベント	
8月19日(土)	みんなでワークショップ 第1回
9月16日(土)	みんなでワークショップ 第2回
10月21日(土)	みんなでワークショップ 第3回
11月18日(土)	みんなでワークショップ 第4回
12月16日(土)	みんなでワークショップ 第5回
1月13日(土)	みんなでワークショップ 第6回
1月20日(土)	みんなでワークショップ 第7回
1月21日(日)	みんなでワークショップ 表現の市場



舞台稽古



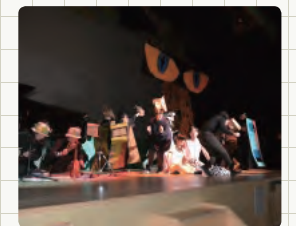
山猫に食べられそうになって、恐怖のあまり顔はこんなに



ひげを作って紳士の練習



広場に柱を立てる



山猫のお面を作って発表

Picture This 2017: 横浜インターナショナルユース フォトプロジェクト



横浜栄写友

連絡先
URL <http://eishayu.squarespace.com/picture-this/>
E-MAIL picturethisjp@gmail.com
TEL 080-3954-9371
Facebook <https://www.facebook.com/groups/1677657579163776/>

団体紹介

横浜栄写友は栄区誕生と共に始まり30年間写真活動を続けてきました。また海外で外国人として暮らしてきたフォトジャーナリストの大藪順子をプロジェクトの講師とし、外国につながる子ども達自身が写真を通して自分の存在価値を見出せたらと思っています。



"Blue Yokohama"参加生徒作品 撮影者/林泳(リン・ヨン)

カメラのレンズを通して 外国、日本の子どもがつながる

二年目となる今回も横浜在住の外国につながる子どもたちの目を通して多文化共生を考える撮影ワークショップと写真の展示を行いました。参加者は、5つの国につながる17人のティーンエイジャー。今回は応募者の要望に応え、小学5年生から参加を受け付けました。

ワークショップでは、開港記念会館や開港広場公園などまちへ出て写真を撮影。カシオの物品協賛により、参加者は本格的なカメラを使用して、じっくり写真を学び、撮影に取り組みました。毎回異なるテーマでレンズ越しにいつもの風景を見直すことで、自分の生活を対象化し、自己と向き合う時間が生まれました。自分にしか撮れないものを探ることは、自己肯定と自己発見につながります。展示用の写真は、撮影者自身が大人スタッフとディスカッションを重ね、決定しました。

インターナショナルコミュニティは、言語の違いや、期間限定の滞在であるということから地域のコミュニティと関わ

る機会が多くありません。そのため、この事業への参加は社会と触れ合うきっかけとしても機能したようです。なかなか出会うことがないインターナショナルスクールと現地校に通う子どもたちが一緒にカメラを抱えて外を歩き、言葉がわからない中でも、お互いを受け入れ合う姿が印象的でした。

象の鼻テラスでの写真展示ではオープニングセレモニーを開催し、日本語、中国語、英語で高校生参加者3名が司会を進行しました。作品紹介では、撮影者それぞれが緊張した面持ちながらも自分の言葉で伝えようと生み出す言葉に会場全体が集中しました。また展示写真を通して、一般の日本人には見えていない世界を垣間見ることで、本当の意味での国際都市について考える場となりました。

今回はクラウドファンディングを利用して予算を確保しましたが、事業の継続については、引き続き資金面の課題が残ります。実施を経て生まれたつながりを活かし、具体的な連携へ向けて動いていく予定です。

会期:2017年8月13日(日)~2018年1月21日(日)
会場:なか区民活動センター、開港記念公園、情報文化センター、大棧橋、みなとみらいエリア、横浜公園、象の鼻テラス
来場者数:3,822人

参加アーティスト:大藪順子、平井正友、佐藤瑞代、峯岸誠一、広瀬美穂、アレクサンドロ・メリニ、小島資治、王浩楠、林泳、サブリナ・ギャリソン、石川まい、光橋レイラ、石川バネサ、アウファ・アサン、アルトフ・ブトラ、テサ・ケイン、ベンジャミン・ウェルズ、サイ・ケイン、エリカ・マックニール、エレノア・ケリー、中島慧思、ミシェル・ウェルズ、エミリー・ハンター、サラ・ハンター

主催:横浜栄写友
後援:公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)
協賛:フォトヨコハマ(パートナー事業)
協力:CASIO、象の鼻テラス、株式会社カラーサイエンスラボ

実施イベント	
8月13日(日)、 8月27日(日)、 9月10日(日)、 9月24日(日)、 10月22日(日)、 11月12日(日)、 11月26日(日)、 12月10日(日)	ワークショップ
1月12日(金) 1月13日(土) ~1月21日(日) 1月13日(土)	象の鼻テラスでの展示物設置 展示会
Picture This 2017: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト オープニングセレモニー	



ワークショップ中の撮影会の様子
@情報文化センター内
撮影者/広瀬美穂



展示会準備の様子@象の鼻テラス
撮影者/大藪順子



オープニングセレモニー参加者
インタビュー
撮影者/大藪順子



横浜下町パラダイスマつり2017+ よこはま若葉町多文化映画祭2017



横浜下町パラダイスマつり実行委員会

連絡先
URL <http://downtownart.hama1.jp/>
E-mail artlabova@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/ParadiseFes>
Twitter <https://twitter.com/ParadiseFes>

団体紹介

日々変わりゆく多文化な下町若葉町において、多様な価値の共存の在り方を思考すべく、町の映画館シネマ・ジャック&ベティと連携しながら、2009年から毎年夏に近隣の詩人やダンサーなどアーティストたちが主体となってプロジェクトを展開しています。



ダンサー 青山るり子+モン族テン・ヴァン「モンタイムス」(演出:羽鳥嘉郎) 撮影者/大津伴絵

まちにある映画館を通じて 夏休みに地域とつながる

9回目の開催となる今年度も、まちの映画館を拠点に、映画を通じて身近な世界を考える「よこはま若葉町多文化映画祭2017」と、まちの人々や商店を巻き込んだ、地元アーティストたちによる「横浜下町パラダイスマつり2017」の二つを同時に開催しました。この事業では、人々がまちのことを共に考え、多様な価値の共存を模索することを目標としています。今年度は、ホームレスの方が販売する冊子「ビッグイシュー」の出張販売ブースを設置するなど、映画館全体が多様性と出会う場となりました。

これまでの活動を通して、拠点であるアートスペース・横浜パラダイス会館は少しずつ、まちに暮らす外国につながる子どもたちの居場所になりつつあります。夏休みのような長期休みでは、出かける先がないと、家の中で液晶を見て一日が終わることもあると言う子どもたちを迎え入れながら、さまざまな企画を実施しました。初めて映画館で映画を見た子どもは、一人で動画サイトを見るのとはまた違う、誰かと感情を共有するという体験を得たようです。

映画祭では、周辺のお店をまわって制作したPR映像を流したり、上映後には、映画のテーマに合わせたお茶会を開催したりと、映画と地域をつなぐためのアプローチを行いました。また、毎年参加している横浜在住のモン族による企画に合わせて、モン族の村を扱った映画「花物語バビロン」の特別上映と監督によるトークを開催するなど、プロジェクト全体がゆるやかにつながる仕掛けを生み出しました。

運営面では、子どもの安全確保とスタッフの負担軽減、そしてこのまちで起きていることを共有するために、子どもと遊ぶボランティアを募集し、毎日3人以上の学生が参加してくれました。事業を経て、その後も継続的な関わりが生まれたことはうれしい成果です。今後は、子ども主体の企画を立てるということも目標の一つです。そのために、いろいろな人が継続的に子どもに関われるよう運営体制を整える必要性を感じています。

会期:2017年8月19日(土)~8月27日(日)
会場:大岡川、横浜パラダイス会館、若葉町周辺
来場者数:1,978人
参加アーティスト:来島友幸、今井紀彰、中村剛彦、青山るり子、テン・ヴァン、羽鳥嘉郎、那須麻沙美、いちむらみさこ、女装アオちゃん、清水恵美、宮間英次郎、高塚利恵、上原亜季、石井淳一、太田昌国、乾信治、相澤虎之助、砂山典子、たんぱりん、スズキクリ、高村典子、韓国移住民映画祭主催者、Art Lab Ova
主催:横浜下町パラダイスマつり実行委員会
共催:Art Lab Ova、シネマ・ジャック&ベティ
後援:横浜市中区役所、公益財団法人横浜市国際交流協会
協力:若葉町町内会

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| 実施イベント | 8月19日(土)~8月27日(日) | 女装アオちゃん&魚釣り |
| | 8月19日(土)~8月27日(日) | アーティスト来島友幸「B級グルメ ベビーカステラ風」 |
| | 8月19日(土)~8月27日(日) | アーティスト・写真家今井紀彰「チェンリング/成功したじぶん写真」 |
| | 8月19日(土)~8月25日(金) | 詩人 中村剛彦「若葉町コトダマップ」 |
| | 8月19日(土)~8月27日(日) | アーティスト来島友幸「復活!スーパーカー 消しゴムレース」 |
| | 8月19日(土)~8月26日(土) | フィリピン育ち那須麻沙美さん交流会 |
| | 8月19日(土) | ブラジル・バン・バン・バン:
リオ五輪報告付き!ブラジルBBQパーティー |
| | 8月20日(日) | モン族テン・ヴァン+ダンサー青山るり子「モンのがたり dab neeg」 |
| | 8月20日(日) | マダム・ペー・韓国移住民映画祭主催者交流会 |
| | 8月20日(日) | 十年:中国で15年間活動してきたアーティスト清水恵美さん交流会 |
| | 8月20日(日)~8月27日(日) | 横浜の唞人宮間英次郎「元帽子おじさんからのビデオレター」 |
| | 8月20日(日)~8月24日(木) | ムサン日記:韓国移住民映画祭主催者と交流食事会 |
| | 8月21日(月) | クレンジング:HatMalaysia交流会 |
| | 8月21日(月) | トトふたりの姉:ことぶき学童保育石井淳一さん交流会 |
| | 8月22日(火)~8月25日(金) | たまこふじこすりこ「ダンス全体+こどもちゃんお茶会」 |
| | 8月22日(火) | ここから出ていけ!:太田昌国さんと「ウカマウ集団」交流会 |
| | 8月23日(水) | 横浜茶館乾信治先生
「皇茶〜国宝茶室待庵の復元(二畳茶室侘茶)」 |
| | 8月23日(水) | ここから出ていけ!:ホームレスいちむらみさこさん交流会 |
| | 8月23日(水) | 横浜茶館乾信治先生「仕舞・小謡・濁吟」 |
| | 8月23日(水) | 肉とダンスの夕べfeat.スナッチ |
| | 8月24日(木) | 関東大震災後の横浜震災作文勉強会 |
| | 8月25日(金) | 乾先生とベリダンスショー!@ヨコハマアジアデザイン&バー |
| | 8月26日(土)~8月27日(日) | ダンサー 青山るり子+モン族テン・ヴァン「モンタイムス」 |
| | 8月26日(土) | 横浜下町パラダイスマつり交流食事会 |
| | 8月26日(土) | ワンダフル・ドアーズライブ |
| | 8月27日(日) | 野毛都橋のノリスケさん
「伊藤のおばちゃん直伝!しまんと新聞ぽっくを作ろう」 |
| | 8月27日(日) | フィナーレ みんなでおさんぽ手持ち花火大会! |
| | 8月19日(土)~8月27日(日) | よこはま若葉町多文化映画祭2017 |



横浜の唞人宮間英次郎「元帽子おじさんからのビデオレター」
撮影者/大津伴絵



アーティスト来島友幸「B級グルメ ベビーカステラ風」
撮影者/大野隆介



ビッグ・イシュー販売
撮影者/大津伴絵



ブラジル炭火焼肉ガウシャ
撮影者/大野隆介



横浜シネマネットワーク実行委員会

団体紹介

横浜の映画館経営者、映画祭・自主上映会の主催者、映画製作者、大学など、映画に係わる活動を行っている人たちが連携して、横浜の映像文化を盛り上げていくためのネットワークづくりを目指します。また、そのネットワークを活用したイベントや情報発信を行います。

連絡先
TEL 045-341-3180(横浜シネマリン)
045-234-9800(横浜シネマジャック&ベティ)



7/31 横浜シネマ実行委員会 準備会

会期：2017年7月31日(月)～10月16日(月)

会場：横浜市開港記念会館

来場者数：388人

参加アーティスト：クローデリック・ボワロウ、福崎裕子、岡島尚志、大高健志、樋口泰人、岡島尚志、クローデリック・ボワロウ、三浦哲哉、八幡温子、梶原俊幸、箕輪克彦、北見秋満、神谷秀明、深田隆之、鳥居秀和、諏訪敦彦、竹中翔子、長島源、増谷文良、柳一則、遠藤協、大澤未来、島田香織、寺尾次郎、田井肇、原田健秀、水野昌光、林未来、木下繁貴、北條誠人

主催：横浜シネマネットワーク実行委員会
共催：コミュニティシネマセンター、文化庁(次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)
後援：横浜市中区役所、横浜市文化観光局
協力：アンスティチュ・フランセ日本、アーツコミッション・ヨコハマ(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、東京国立近代美術館フィルムセンター(映画上映)

実施イベント
7月31日(月) 「横浜シネマネットワーク会議」準備会
9月8日(金) 全国コミュニティシネマ会議2017横浜
～9月9日(土)
10月16日(月) 横浜シネマネットワーク会議

まちのミニシアターで連携をとり
横浜の映画文化を盛り上げたい

横浜で映画に関わる人たちのネットワークを構築するため、今年度は、全国コミュニティシネマ会議を横浜に招聘しました。会議の運営を通して、横浜のミニシアターや上映団体、映画祭関係者などが交流することがねらいの一つです。イベントは「準備会」、「全国コミュニティシネマ会議」、反省会を兼ねた「横浜シネマネットワーク会議」の3つに分けて展開。横浜市内の映画関係者が結束を固め、活動を発信する機会となりました。

コミュニティシネマは「上映作品の芸術的・文化的価値を重視した、歴史性、批評性、実験性に富んだ企画によって、公共的な価値を優先した番組編成を行う」ことを使命とした活動です。9月に開催した会議には、全国から100近く映画館、映画祭、映像ホール、上映団体など約350人もの映画関係者が横浜に集まりました。会議では、ヨーロッパの国々を中心に巨大な映画館ネットワークをつくり、その活動を支援する「ヨーロッパシネマ」創始者

のクローデリック・ボワロウによる講演や、ミニシアターの今後を語るディスカッション、映画字幕に関するトークなど多彩なプログラムを揃え、過去最大の規模となりました。

プレゼンテーションマラソンでは、横浜のミニシアターや映画祭、上映団体などがそれぞれの活動をPRし、来場者からは「横浜における映画上映活動の多様性に驚いた」との声もあがりました。横浜は全国的にも珍しいほどミニシアターが密集し、自分たちの力で上映活動を行う土壌があるまちですが、今回の企画を通して、ようやくつながりが生まれ、情報交換を行うことができました。これまでそれぞれが独自に行ってきた個性あふれる活動を共有することで、地域の映画文化を盛り上げようという機運が高まりました。

次回への課題はネットワークの拡充と、若い世代の観客育成など新たな層の開拓です。館や団体の垣根を越えて連携をはかりながら、新たな横浜の魅力を生み出せたらと考えています。



9/8 全国コミュニティシネマ会議 受付



9/8 ヨーロッパシネマボワロウ氏の講演



9/8 横浜シネマリンプレゼンテーション



9/8 ヨコハマらいぶシネマプレゼンテーション

横浜・藤棚シネマ商店街2017 アニメフェスティバル



横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会

連絡先
URL <http://cinema1900.yokohama>
E-mail info@cinema1900.yokohama
TEL 045-548-8712
Facebook <https://www.facebook.com/Fujidana.cinema/>

団体紹介

本会は、当イベントを計画・実行することを目的として結成されました。実行委員は映画という総合アートを共通項として、地域の活性化、商店街の復興を願う藤棚商店街店舗有志並びに、地域外の映画愛好者によって構成されています。



ご当地出身!松本梨香さんのトーク&ライブにちびっこが殺到!

会期:2017年7月17日(月)~8月13日(日)
会場:シネマノヴェチェント、藤棚の Apartメント、萬歳湯、藤棚地区センター
来場者数:720人

参加アーティスト:松本梨香、大山百合香、ならはしみき、原恵一、末吉裕一郎、大谷幸、中村隆、横川貴大、富沢風戸

主催:横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会
共催:西前銀座商店街協同組合、藤棚一番街協同組合
後援:CREATIVE HOUSE オフィス63、株式会社ビーモ、ハブシステムズ株式会社、株式会社ひかり社、株式会社ケンゾウ、株式会社シネマノヴェチェント、有限会社鈴木映画

実施イベント
7月17日(月) 原恵一監督特集「カラフル」上映+トーク
~7月22日(土)
7月29日(土) アニメお菓子ワークショップ 爆笑!
マシュマロ福笑い大作戦
7月29日(土) 原恵一監督特集「映画クレヨンしんちゃん 爆笑! わくわく大決戦」銭湯上映
8月11日(金) 原恵一監督特集「河童のクゥと夏休み」上映+トーク+ライブ
8月13日(日) 夏休み!松本梨香さんトーク&ライブ

銭湯で上映された 日本屈指のアニメーション

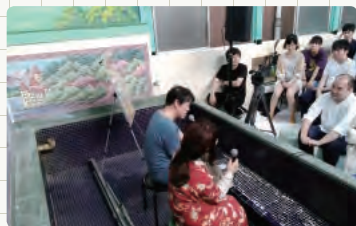
小さな映画館のある商店街を舞台に、実施2回目となる今年度は、大衆娯楽として発展し日本を代表する芸術文化のひとつとなった「アニメーション」に分野を絞り、事業を展開しました。映画ファンだけでなく若者層やファミリー層が親しめるプログラムを構成。クレヨンしんちゃんの映画などを数多く手掛けた原恵一監督作品の上映と、映画にまつわるワークショップやライブイベントを実施しました。

映画館・シネマノヴェチェントでは、第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞等を受賞した「カラフル」の上映とトークを開催。藤棚地区センターでの「河童のクゥと夏休み」上映とトーク&ライブは、フィルム上映ということもあり地元住民から「毎年開催してほしい」と反響がありました。夏休みに地域の大人や子どもが集まって映画を見るということに懐かしさと地域のあたたかさを感じたようです。老舗銭湯・萬歳湯での「映画クレヨンしんちゃん 爆笑! わくわく大決戦」上映では、今回の

上映をきっかけに初めて銭湯に足を運んだという声もあり、下町文化の一つである銭湯に親しむ機会としても成功しました。同日の昼には、上映作品にちなんだキャラクターなどの顔をマシュマロに描くワークショップで、映画鑑賞以外の取組も試みました。

少しずつ地域からの来場者が増えていく中で、商店街では映画をきっかけにまちを活性化しようというムードが高まってきました。前回の実施経験に基づき、企画の立案から運営まで商店街が主体的に関わりはじめたことは大きな成果です。ご当地出身声優・松本梨香さんのトーク&ライブでは商店街に特設ステージを設置し、まち全体がお祭りムードに包まれました。

今後はアート活動と地域活性化のバランスが取れたイベントの発案や、継続の実施へ向けた体制づくりが課題です。より地元密着型のイベントとして成熟し、「映画館のあるまち」だからこそできる取組を探っていきます。



アニメ界の巨匠が浴槽の中で!銭湯トーク



アニメ界を代表する巨匠・原恵一監督と映画「カラフル」末吉裕一郎美術監督によるトーク



いろんな意味でアツい! 大入満員銭湯上映会



藤棚地区センター「河童のクゥと夏休み」主題歌を歌う大山百合香さんのライブ

横浜みなと映画祭2017

「ユカがハマに帰ってくる ～銀幕に映るヨコハマ～」



横浜みなと映画祭実行委員会

連絡先
URL <http://www.ydff.net/>
E-mail info@ymff.net
TEL 080-2550-5581
Facebook <https://www.facebook.com/YokohamaMinatoFilmFestival/>
Twitter https://twitter.com/ymff_official

団体紹介

横浜と映画が好きな我々は、もどかしいのです。かつて映画の街として栄えた伊勢佐木町周辺、劇場の閉館が相次ぎ、現在は3館を残すのみとなりました。「いせぶら」の愛称で親しまれた「街の回遊性」とシネマシティ・ヨコハマの復活を目指します。



新聞の広報を見て30年ぶりに映画館に来た方もいました

会期：2017年7月21日(金)～7月23日(日)
会場：さくらワークス、横浜シネマリン、シネマジック&ベティ、
横浜開港記念会館
来場者数：831人

参加アーティスト：篠田正浩、中村高寛、筒井龍平、服部宏

主催：横浜みなと映画祭実行委員会
協力：関内まちづくり振興会

実施イベント
7月21日(金) オープニングイベント
7月22日(土) 上映：乾いた花/トークショー：篠田監督
7月22日(土) 上映：我が恋の旅路/舞台挨拶：篠田監督
7月23日(日) 上映：月曜日のユカ

スクリーンに映る横浜とともに 「イセブラ」を楽しむ映画祭

2017年は、横浜・港座で初めて映画が上映されてから120年を迎える記念の年です。今回は、映画のまちと呼ばれた伊勢佐木町を舞台に、東京オリンピック前の横浜で撮影された映画の上映やトークショーを開催。あえて複数の施設を会場にすることで、映画鑑賞や食事をしながらまちを散策する「イセブラ」という文化を復活させ、回遊性の向上を図りました。

オープニングイベントでは、映画監督・プロデューサー・映画評論家が集まり、それぞれの記憶に残るスクリーンの中の横浜について語られました。映画を通じてまちの記憶や時代との関わりを提示する、みなと映画祭らしいオープニングとなりました。

映画祭には、シニアの来場者が多く、ラインナップを見て何十年かぶりに映画館へ足を運んだという声もありました。横浜シネマリンでは「乾いた花」の上映と、篠田正浩監督によるトークショーを実施。映画と併せ、かつての横浜の文化

に触れる機会となりました。また、シネマジック&ベティでは、「我が恋の旅路」「月曜日のユカ」を上映。231名の方が、スクリーンのなかに映る1964年ごろの懐かしい横浜の風景にひたりました。会場に掲示した当時のポスターも好評でした。二館で同日上映というタイムテーブルを組んだため、横浜シネマリンでの上映後には、次のプログラムのためシネマジック&ベティまで歩く人々の姿がありました。

最終日には開港記念会館にて、横浜を舞台にした中村高寛監督の最新作「禅と骨」の完成披露上映会に協力。映画祭全体を通して新旧のヨコハマ映画から、映画とまちの記憶、映画と時代の関わりを提示しました。映画の持つ記録性にフォーカスしたことで、来場者は自身の記憶の中の横浜に再会する機会となったようです。

今回はSNSを中心に告知を行いました。さらなる認知度向上のためには広報戦略が必要だと考えています。さらに、回遊性を高める仕掛けにも工夫を重ねていきます。



2日目、横浜シネマリンにて映画上映



篠田正浩監督によるトークショー



オープニングセレモニーの様子、ゲスト3名によるトークショー



次の会場へ徒歩で移動する観客



横浜開港記念会館にて中村監督に新作をプレミア上映

LIGHT × SOUND × MOVEMENT

- 子供の感性を刺激する音と光と動きのアート



LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA

連絡先
URL <http://littleartistsleagueyokohama.weebly.com>
E-mail littleartistsleague@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/littleartistsleague/>
Instagram <https://www.instagram.com/littleartistsleague/>

団体紹介

インターナショナルファミリーを持つ3人のアーティストママが立上げた団体。未就学児を対象とした英語でのマンスリーアートワークショップを主軸に活動。子どもたちが制作に夢中になることでアートの面白さを発見し、豊かな創造性を育む取り組みをしています。



ハラタアツシさんの光と色に染まる会場 撮影者/Yukiko Ogawa

会期:2017年12月17日(日)
会場:YCC ヨコハマ創造都市センター
来場者数:138人

参加アーティスト:ハラタアツシ、谷澤智文、柳元武司

主催:LITTLE ARTISTS LEAGUES YOKOHAMA
協力:特定非営利活動法人サ・グローバル・ファミリーズ

実施イベント
12月17日(日) LIGHT×SOUND×MOVEMENT
-子供の感性を刺激する音と光と動きのアート-

光、音、動きで 一日だけのアート体験イベント

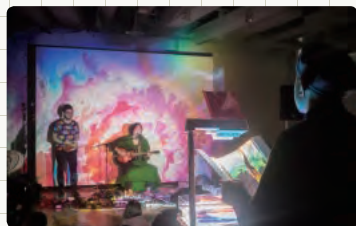
クリエイティブでグローバルな子どもの未来をサポートするため、英語、日本語の両言語に対応したアートのワークショップイベントを開催しました。団体としてもここまでオープンなイベントを開催するのは初めての試みでしたが、小学生以下の子どもたちとその保護者138名を受け入れることができました。

当日は、アートが人と人をつなぐことを体感できるような複数のプログラムを展開しました。ゴッホの代表作「星月夜」にインスピレーションを受けた「星月夜エッチング」、大人も楽しめる切り絵「ペーパーシャンドリア」などの美術ワークショップに加え、自由に切り絵をして走馬灯をみんなで作りあげる「切り絵走馬灯」や、光る棒を使った「STAR GATHERING・星集め」、蓄光ペインティングなど光を楽しむプログラムを用意しました。ライブの時間には、プロジェクションアーティストのハラタアツシが光と色で描き出す異世界で、ミュージシャン谷澤智文の幻想的な

音に浸るというアート体験を子どもたちに届けることができました。全体を通してバイリンガルな空間づくりを意識し、ブックコーナーでの読み聞かせは英語で進行し、横浜インターナショナルスクールの生徒もスタッフとして参加しました。紙コップを積みあげる「コップの森」はシンプルながらも子どもたちに大人気で、活動を通して参加者同士の自然なコミュニケーションを生み出しました。

参加者からは「こういう活動をずっと探していた」という声があがりました。子ども向けのアートイベント数は充実していても、実際は言語の違いが参加のハードルになっていたりと、情報を得ること自体が難しかったりという現実があります。このイベントが、インターナショナルコミュニティと地域のコミュニティをつなぐきっかけの一つとなれば幸いです。

大規模なイベントを実施したことで、運営面での課題も見えました。今後も、さまざまなコミュニティと関係を結び、活動を継続していきます。



ゲストアーティスト:ハラタアツシ氏、谷澤智文氏
撮影者/Yukiko Ogawa



ケミカルライトやグリッターを瓶に入れて「星集め」
撮影者/Yukiko Ogawa



ゴッホの絵画「星月夜」を題材にエッチング
撮影者/Yukiko Ogawa



2千個以上のコップを積んで遊ぶ、「コップの森」
撮影者/Yukiko Ogawa



紙の雪結晶を吊るしていく「ペーパーシャンドリア」
撮影者/Yukiko Ogawa

障害者も健常者も分け隔てなく
生きた芸術を広げよう
リビングアートネットワーク



リビングアートネットワーク

連絡先
URL <http://www.livingart.red>
E-MAIL info@livingart.red
TEL 080-6705-1359

団体紹介

様々なジャンルのアーティストと知的障害者が主体となり、港北区を中心に、障害者芸術の素晴らしさを伝え、健常者や障害者の枠組みを乗り越え、その成果を社会に還元します。参加者は表現を楽しみ、コミュニケーション能力や身体表現のクオリティを高めます。



ステップインザライフ2018 撮影者/リビングアートネットワーク撮影部

身体と音楽で
障害の境界を越える

今年度は、「障がいのあるなしに関わらず、カラダとオンガクとコトバを使ってあらゆるボーダーライン(境界)を乗り越えていく」をテーマに、オープンワークショップ「ゼロボディワークショップ」の定期開催を無事に終了し、沢山の方々が互いの表現が自己と他者によって認められる時間と空間を作りました。特に新たにコミュニケーション能力や身体能力、芸術的感性を高めるメソッドを開発し、日常生活においても今まで不可能だったことが可能になるという大きな変化が現れる結果となりました。健常者にとっても障害を持った方と共に演劇を体験することで、「健常者」が自己と向き合う貴重な機会になったと思います。

「エイブルフレンドシンポジウム」では、「障害のある人が差別されず普通に生活するためにアートに何が出来るか」をテーマに、「相模原大量殺傷事件」「障害者の恋愛事情」「障害者の性」など具体的な事柄についてアートと福祉の可能性や現在の問題点など深い議論を一般公開しま

した。アカデミックに福祉とアートの歴史を研究し、そこから現代における実践的な福祉とアートの可能性を探ることができました。観客も参加してのトークライブは、収録した記録はYouTubeや冊子等を使って広く公開する予定です。

今年から新たに二つの事業が正式に加わりました。「リビングダンスパーティ」は80年代ディスコサウンドからJPOPまで幅広い軽快な音楽に合わせて健常者も障害者も分け隔てなく踊って楽しめるダンスパーティです。DJによる音楽とゲストダンサーが読み聞かせやダンスパフォーマンス盛り上げ、観客全員が踊りました。

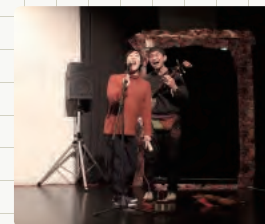
二つ目は、横浜市内で障害者余暇支援と障害者就労支援事業を幅広く展開し障害者ダンスパーティの実績のある、まちふくとリビングアートネットワークのコラボ企画です。にぎわい座小ホールを貸しきり、有名ダンスグループをゲストに招きダンスを楽しむイベントになりました。

会期：2017年7月5日(水)～2018年1月31日(水)
会場：長者スタジオ、ともだちの丘、横浜にぎわい座のげシャレ、ともだちの丘
来場者数：1,724人

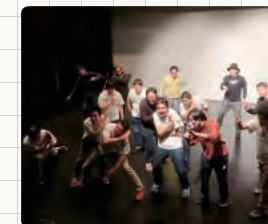
参加アーティスト：相良ゆみ、今井尊也、Michi & Kayo、tomosuke、根本ノブヒロ & 高橋友輔、はっぱオールスターズ、劇団かたるべ座、ともだちの丘えんげきぶ、小池健太、吉松章、澤田高綱、田中博士、江原顕、サライ、STEP IN THE LIFE

主催：リビングアートネットワーク
共催：NPO法人げんき、リビングアートフェスティバル実行委員会
協力：港北区社会福祉協議会、港北区作業所連絡会、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会、大倉山商店街振興組合、長者スタジオ、横浜にぎわい座、株式会社まちふく、メガロシアター、ステージオフィス横浜

実施イベント	日程	内容
リビングアートシンポジウムvol.1	11月27日(月)	リビングアートシンポジウムvol.1
リビングダンスパーティvol.1	12月17日(日)	リビングダンスパーティvol.1
リビングアートシンポジウムvol.2	12月22日(金)	リビングアートシンポジウムvol.2
リビングアートフェスティバルvol.1	12月22日(金)	リビングアートフェスティバルvol.1
リビングアートシンポジウムvol.3	1月13日(土)	リビングアートシンポジウムvol.3
リビングアートシンポジウムvol.4	1月21日(日)	リビングアートシンポジウムvol.4
リビングアートシンポジウムvol.5	1月27日(土)	リビングアートシンポジウムvol.5
リビングアートフェスティバルvol.2	1月28日(日)	リビングアートフェスティバルvol.2
ゼロボディワークショップダンス	7月19日(水)、8月9日(水)、 9月20日(水)、10月18日(水)、 11月15日(水)、12月21日(木)、 1月17日(水)	ゼロボディワークショップダンス
ゼロボディワークショップ演劇	7月5日(水)、7月12日(水)、 7月26日(水)、8月2日(水)、 8月23日(水)、8月30日(水)、 9月6日(水)、9月13日(水)、 9月27日(水)、10月4日(水)、 10月11日(水)、10月25日(水)、 11月1日(水)、11月8日(水)、 11月29日(水)、12月6日(水)、 12月13日(水)、12月20日(水)、 1月10日(水)、1月24日(水)、 1月31日(水)	ゼロボディワークショップ演劇
リビングダンスパーティvol.2	1月27日(土)	リビングダンスパーティvol.2



根元高橋2018
撮影者/リビングアートネットワーク
撮影部



はっぱ隊2018
撮影者/リビングアートネットワーク
撮影部



シンポジウム2018
撮影者/リビングアートネットワーク
撮影部

ヨコハマアートサイト2017を ふりかえる

Look back over the Yokohama Artsite 2017

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、地域課題の解決につなげる芸術文化活動をサポートするため、芸術文化の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある芸術文化を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

2017
YOKOHAMA
Art Site

4月
5月

採択 & 選考

選考委員

佐藤 千晴 (大阪アーツカウンシル 統括責任者)
戸 舘 正 史 (一般社団法人地域創造 芸術環境部 主事)
松尾子水樹 (学芸員)
松 本 道 雄 (認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま 副理事長)
吉野さつき (学校法人 愛知大学 文学部 人文社会学科 准教授)

外部の有識者で構成されたヨコハマアートサイト2017選考委員会により選考を行いました。

実施区	団体名/事業名	採択額
金沢区	アーティストネットワーク+コンパス/会社まるごとギャラリー2017	¥500,000
都筑区、緑区、青葉区、港北区	特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク/ アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	¥240,000
戸塚区	認定NPO法人あっちこっち/ 子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに楽しむわくわくワークショップ シリーズVol.6	¥553,000
中区	石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会/石川町ストリートアートプロジェクト	¥900,000
中区	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会/ カドベヤ・オープンDAY—つどおう・かたろう・つながろう	¥450,000
中区	映像グループポジション/ ヨコハマ・ドキュメンタリー映画普及プロジェクト2017特集上映「変わりゆく街、変わりゆく子どもたち —ハマを見つめたドキュメンタリー映画—」	¥235,000
南区	大岡川アートプロジェクト実行委員会/大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2017」	¥500,000
中区	NPO法人Offsite Dance Project/本牧アートプロジェクト2017	¥1,500,000
金沢区	金沢文庫芸術祭実行委員会/第19回金沢文庫芸術祭	¥400,000
西区	紙芝居文化推進協議会/第18回手づくり紙芝居コンクール	¥360,000
中区	旧劇場オープンスタジオ実行委員会/ 「踊る旧劇場」〜クリエイターオフィスのオープンスタジオ〜	¥1,000,000
栄区	さかえegaoプロジェクト/さかえegaoフェスティバル	¥300,000
栄区	さかえdeつながるアート/ティーンズクリエイション展2017	¥250,000
港南区、都筑区、中区	特定非営利活動法人スローレーベル/ SLOW ACADEMY 福祉施設と地域コミュニティをつなぐワークショップ	¥1,800,000
戸塚区、中区、旭区、南区、保土ケ谷区	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと/こころに響く打楽器作っちゃおう	¥700,000
都筑区	NPO法人都筑民家園管理運営委員会/都筑・遺跡公園・民家園アート月間2017	¥140,000
港南区	つなぐプロジェクト縁実行委員会/[otto & orabuを横浜に呼ぼう]	¥1,600,000
中区、保土ケ谷区、栄区	一般財団法人日本京劇振興協会/こども京劇プロジェクト inYokohama	¥310,000
西区	「土方巽1960しずかな家」実行委員会/土方巽 1960 しずかな家III	¥600,000
緑区	NPO法人ぶかぶか/みんなで作るワークショップ	¥1,000,000
中区	横浜栄写友/PictureThis2017:横浜国際ナショナルユースフォトプロジェクト	¥560,000
中区	横浜下町パラダイスマつり実行委員会/ 横浜下町パラダイスマつり2017+よこはま若葉町多文化映画祭2017	¥1,000,000
中区	横浜シネマネットワーク実行委員会/横浜映画ネットワーク実行委員会	¥800,000
西区	横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会/横浜・藤棚シネマ商店街2017 アニメフェスティバル	¥500,000
中区	横浜みなと映画祭実行委員会/ 横浜みなと映画祭2017「ユカがハマに帰ってくる ~銀幕に映るヨコハマ~」	¥200,000
中区	LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA/ LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA PRESENTS:LIGHT × SOUND × MOVEMENT ~子どもの感性を刺激する光と音と動きの体感型アートイベント	¥200,000
港北区	リビングアートネットワーク/ 障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を広げようリビングアートネットワーク	¥900,000

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.012発行

特集
「まちなかミュージアム」



6月

キックオフ・ミーティング

参加団体による活動
紹介と、事務局より
1年間の流れや各種
手続きについての
説明を行った。



会 場:BUKATSUDOホール

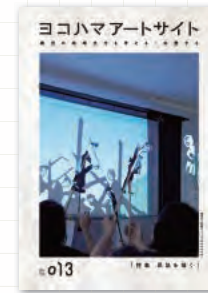
6月7日
(水)

ヨコハマ
アートサイト2017
事業開始

7月

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.013発行

特集
「民話を描く」



9月

アートサイトラウンジVol.15
「横浜北部の民話に聴く～『民』と『族』の間に挟まれて～」

「聴く」ことを通して多文化共生社会の実現
と、コミュニティ意識を高める「横浜に聴くプ
ロジェクト」。凸凹な個性を持つ青少年と、海
外で活躍する日本人アーティストによるアー
モンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト
の活動紹介に併せ、民話という切り口で地
域コミュニティにアプローチするトーク。



ゲスト:Robert Eskildsen ロバート・エスキルドセン
(「横浜に聴くプロジェクト」代表/国際基督教大学上級准教授)
会場:なごみ邸

10月23日
(月)

10月28日
(土)

事業実施前
ヒアリング

参加団体と事務局が個別
に面談し、事業実施に向け
ての情報共有を行った。

事業実施後
ヒアリング

参加団体と事務局が個別
に面談し、プロジェクトを
実施してみた成果や課題
などを共有し、フィードバック
を行った。

アートサイトラウンジVol.14
「アートイベント、撮った後どうする？」

アートプロジェクトの活動記録や、そこから
派生した映像作品を活用することで、どの
ような展開が考えられるのか。先行事例を
紹介し、そこで作られた映像作品を鑑賞し
ながら、アートプロジェクトにおける映像制
作の可能性についてのディスカッション。



ゲスト:蔭山ヅル、スズキクリ(ART LAB OVA)
林月子、信田真宏(たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト)
高崎明(NPO法人ぶかぶか)、飯田基晴(映像グループ ローポジション)
会場:シネマノヴェチェント

11月26日
(日)

12月

1月

2月18日
(日)

3月

3月17日
(土)

2018

季刊ヨコハマ アートサイト Vol.014発行

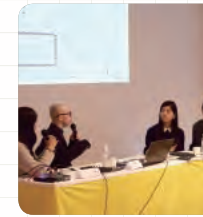
特集
「学校に出かけよう」



ヨコハマ アートサイト2017 事業終了

アートサイトラウンジVol.17 「まちとアートの仲人たち」

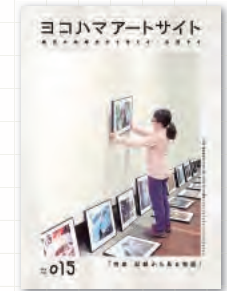
劇場や美術館、ホール等を飛び出して、地域そのものを舞台に展開する創作／発表活動も珍しくなりつつある現在。地域とともに作品を生み出し育てる活動が注目されています。地域とアートのつなぎ手にはどのような役割が求められているのでしょうか。4つの異なる立場のゲストを招き、地域で展開するアートプロジェクトの未来を考えます。



ゲスト：石神夏希(ペピン結構設計)、宮武亜季(居間 theater/ PARADISE AIR)、宮永琢生(ままごと)
横井貴子(フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局)

季刊ヨコハマ アートサイト Vol.015発行

特集
「記録から見る物語」



アートサイトラウンジVol.16 「地域で次代を育むこと」

アートに関わりながら、地域文化の担い手をどのように次代へつないできたか、これからの未来に何を委ねていくか。長く活動を続けてきた4団体がこの10年を振り返り、現在の課題と次世代への展望を語るトークセッション。



ゲスト：海老沢彩(AOBA+ART)、浅葉弾(金沢文庫芸術祭実行委員会)
石山克幸(GROUP創造と森の声)
岩上百合子(さかえdeつながるアート)
会場：横浜市栄区民文化センター リリス・会議室

ヨコハマアートサイト2017 報告会 「アートの現場から見る地域文化」

各団体による事業報告と、その中で見えてきた横浜における地域文化の今を探るトークセッション。終了後には交流会を設け、参加団体が共に一年間を振り返った。



ゲスト：松本道雄(認定非営利活動法人市民セクターよこはま 副理事長)、
吉野さつき(学校法人 愛知大学 文学部 人文社会学科 准教授)
会場：YCCヨコハマ創造都市センター 3F

ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する

季刊ヨコハマ
アートサイトとは

「横浜の地域文化を考える・応援する」をテーマに、ヨコハマアートサイトの広報プログラムの一環として、参加団体の取組を中心に、横浜の地域文化に焦点をあて、各地域での取組を幅広く紹介する冊子です。
今年度はvol.12、vol.13、vol.14、vol.15の計4冊を発行しました。
※区役所や市内外の文化施設を中心に配架しています。バックナンバーをご希望の方はヨコハマアートサイト事務局へご連絡ください。

Vol. 012

特集「まちなかミュージアム」

日吉の森庭園美術館(港北区)
博物館 Café & Bar うっふ(中区)
横浜蓄音器ミュージアム(戸塚区)
演劇資料室(西区)

レポート
ヨコハマアートサイト2017キックオフ・ミーティング(西区)

コラム 地域文化の風景
変わらない風景の中で人々が出会い織りなすハーモニー／二村徹

事務局うろうろ日記
桜まつり(南区)、横浜美術館「ファッションとアート」(中区)
横浜開港資料館「横浜・地図にない場所」(中区)
全国都市緑化よこはまフェア・里山ガーデン(緑区)



Vol. 014

特集「学校に出かけよう」

さかえdeつながるアート(栄区)、つなぐプロジェクト緑実行委員会(港南区)
一般財団法人日本京劇振興協会(中区)
認定NPO法人あっちこっち(西区)、アートの時間(戸塚区)

レポート
アートサイトラウンジvol.14
「アートプロジェクト、撮った後どうする?」(西区)

コラム 地域文化の風景
今日も音楽が流れる場所で時代を超え受け継がれていく文化と地元愛／
八野治之、中島直子

事務局うろうろ日記
黄金町バザール(中区)、会社まるごとギャラリー(金沢区)
ヨコハマトリエナーレ2017(西区)、みどり福祉ホームまつり(緑区)



Vol. 013

特集「民話を描く」

紙芝居文化推進協議会(戸塚区)
かながわ浦島太郎PJ(神奈川区)
影絵グループ「花いちもんめ」(瀬谷区)
特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク(都筑区)

レポート
これまでのアートサイトラウンジ

コラム 地域文化の風景
宿場町の記憶が残るまちで生活と文化が交差する／西村雅典、錦澤俊男

事務局うろうろ日記
ギャラリーかれん(港北区)
菊名北町町内会盆踊り大会(港北区)
虫送り(都筑区)、南まつり(南区)



Vol. 015

特集「記録から見る物語」

映像グループ ローポジション(中区)
街のはなし(青葉区)
横浜栄写真(中区)
牛込の獅子舞(青葉区)

レポート
ラウンジvol.15、16 レポート

コラム 地域文化の風景
受け継がれてきた絆の中で育まれるアートな日々／小浜洋

事務局うろうろ日記
認定NPO法人あっちこっち(戸塚区)、つなぐプロジェクト緑(港南区)
LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA(中区)
筒粥神事(港北区)

